

人文会ニュース

1995. 12

〈人文書講座 33〉

民族問題と多文化主義……………一橋大学 梶田孝道
……………多様な民族問題の理解のために

第11回特約店・準特約店の選定を終えて

……………調査・研修委員会 濱地正憲

人文会研修旅行小報告……………弘報委員会 土屋知可夫

読者のための出版流通改善

……………その現状分析と課題

……………(社)日本書籍出版協会

(社)日本雑誌協会

民衆史の先駆者

色川大吉 著作集

全5巻・好評刊行中

- 1 新編 明治精神史
- 2 近代の思想
- 3 常民文化論
- 4 地域と歴史
- 5 人と思想

既刊1巻8600円／2巻7600円
以後、毎月巻数順に刊行予定

筑摩書房

東京都台東区蔵前2-5-3 * 定価税込

アジアシフト の時代

～マネーからみる日本とアジア～
中尾茂夫著 巨額の不良債権問題、円
の乱高下に揺れる日本経済の将来像を
アジアの視点から読み解く。 1800円

「知の再発見」双書48

アンコール・ ワット

B・ダジャンス著 石澤良昭監修
9～15世紀、東南アジアに大帝國を築
き上げた文明の本質を探る。 1400円

創元社 大阪市中央区淡路町4-3-6
東京都新宿区山吹町334-11

古田元夫
ベトナムの世界史
ベトナムから東南アジア世界へ
ベトナムのナショナル・アイデンティティの歴史的
展開を、周辺世界との関わりの中であとづける

四六判・二六七八円 税込

田村 毅・塩川徹也編
フランス文学史
文学領域の拡大と、現代思想をふくむ二十世紀文学
を重視し、ポストモダンに及ぶ。読み物としても抜
群の通史。

A5判・四三二六円 税込

東京大学出版会

東京都文京区本郷7 Tel.03-3811-8814

草思社

銃弾の向こう側

——日本人留学生はなぜ殺されたか
飯塚真紀子 94年にロスで射殺された
2人の留学生の仲間と、容疑者側ギャング
の青春をバラレルに描く。定価1800円

あるドイツ女性の 二十世紀 1900～1993

川口マーン恵美 ドイツ女性の脳裏に
刻まれた二つの戦争と戦後の記憶を
あざやかに描きだした秀作。定価1900円

オウムと全共闘

小浜逸郎 全共闘世代の著者が自らの
体験を踏まえ、オウム事件の必然性を真
摯によりとく刺激的な書。定価1600円

東京都渋谷区神宮前4-26-26 (税込価)
☎03(3470)6565 振替00170-9-23552

民族問題と多文化主義

——多様な民族問題の理解のために

1 複数の多文化主義

この数年にわたって、「多文化主義 multiculturalism」について議論する機会が多くなった。社会学の視角から、「多文化主義」の一般理論を構想する可能性についても考えてみた。しかし、結論からいうと、多文化主義の一般理論を定式化することは困難なようだ。多文化主義には、多民族共存という現実、政府の政策、運動のアイデアオロギーといった諸側面があり、それゆえ多面的なアプローチが必要であり、その説明は容易ではない。しかし、多文化主義という言葉がカバーするものと期待されてい

一橋大学教授
梶田 孝道

る諸問題を体系的に理解することは、どうも不可能なようである。いいかえれば、多文化主義という言葉のなかには、かなり異質な理論をもった複数の問題群が内包されており、それらに共通にあてはまる論理を見いだすことは容易ではないのである。むしろ逆に、多文化主義という言葉によってイメージされる問題群を分節化し、異なった性質と論理をもった問題群として定式化することが望ましいのではないか。

こうした問題意識をもつに至った一つのきっかけは、一九九五年春におけるカナダ多文化主義政策に関する研

究調査旅行であつた。^(半)周知のように、カナダは多文化主義の母国であり、国民の構成が多文化的であるのみならず、イデオロギーや理念としても多文化主義が広く受け入れられており、また連邦政府自体によって政策としても多文化主義が採用されている。調査旅行時において最も印象深かったのは、学校や自治体、さらには多文化主義を司っている連邦政府の省庁それぞれ自体においても、各セクションによって多文化主義の理解が異なり、いわば複数の多文化主義に遭遇したことであつた。カナダには、複数の民族問題ないしは文化問題が存在するが、それらの問題の解決を困難にしている原因は、多文化主義の不十分さではなく、むしろ多文化主義の諸側面間の矛盾、あるいは、複数の多文化主義の間での衝突であるように思われる。多文化主義のなかに相互に異質な要素が混在しており、それらの間の矛盾が表面化しているのである。

2 カナダにおける五つの民族的アイデンティティ

カナダの多文化主義^(半)を考える上で、第一に念頭におくべきことは、やはりフランス語系住民をかかえるケベック

ク州の分離独立問題である。一九九五年秋には、ケベックの分離独立を占う州民投票が行われた。結果的には連邦主義者の票がわずかに上回り、ケベック州の分離独立の可能性は当面は遠のいた。しかし、分離主義者が予想以上に多いことが明らかになり、カナダ政治に新たな要素をつけ加えることとなった。カナダは、イギリス系住民とフランス系住民との戦いと妥協によって形成されたが、一九六〇年代以降のケベックの分離独立問題に直面するなかで、連邦政府は「二言語」「文化主義」を提示し、これが後の「二言語多文化主義」へと発展したという点はよく知られている。しかし、ケベックはもともと妥協と連合によってカナダに加わったという経緯があり、今日においても、カナダは国家連合的な側面をもっている。つまりケベック自体が、「ネーション」であり「ホームランド」なのである。それゆえケベックでは、むしろ「ナショナルイズム」が叫ばれ、域内においては文化や言語の均質性が顕著であり、「多文化主義」という主張はむしろ拒否され、それにかわって「インターカルチュラリズム」という言葉が好んで使用される。近年においては、後述するように多文化主義の力点はアジア系移民の問題

絵巻に 中世を読む

藤原良章・五味文彦編 絵巻のなかに繰り広げられる様々な風景に、人々の生活や風俗を探り、鮮やかに再現された中世世界へ読者をいざなう。 3502円

平安京

—その歴史と構造—

北村優季著 律令都市、平安京の成立から解体までの変貌を、新鮮な切り口で克明に説き、その全体像を解明。 3296円

日本の翡翠

—その謎を探る—

寺村光晴著 縄文時代にあらわれ、奈良時代に忽然と姿を消す翡翠。古代人を魅了したこの石の謎と実像に迫る。 2781円

狩野派絵画史

武田恒夫著 日本絵画史上の巨大な山脈「狩野派」。その成立から終焉までを跡づけ、流派活動を後援した支持層を詳述した独創的な狩野派史論。 4820円

有識故実 大辞典

鈴木敬三編 古典理解に不可欠な公家や武家の官職・年中行事・儀式・作法・服飾・調度・建築・乗物・武器・武具等の中から3200項目を網羅し詳しく解説する。 好評発売中

四六倍判・860頁／18540円

歴史手帳 '96

好評発売中 750円＋270円

吉川弘文館

〒113 東京都文京区本郷7-2-8
電話03-3813-9151／定価は税込

へと移行しつつあるが、彼ら移民に対するケベックの基本姿勢は、「多文化主義」というよりも「同化」ないしは「統合」である。

第二は、諸州間の平等という主張であり、とりわけ西部諸州の主張である。「二言語多文化主義」という政策は、当初の「二言語「文化主義」を修正する形で現実化したものである。これは、「特別な社会」という規定を求めるケベック州に反対し、ケベック州との格差に不満をもつ西部諸州、とりわけ「ホワイト・エスニック」と呼ばれるウクライナ系などの後発移民の運動によって実現した。言語のレベルでは多言語の公用語化は不可能であるが、文化のレベルでは、イギリス系、フランス系に加

えて、その他のエスニック集団の文化もカナダの文化を構成するものとして、公式に認知されたのである。彼らは祖先言語の復活などを実現してきたが、そこでの民族文化は、むしろシンボリック的な意味合いが強い。また、ここでの論理は州間の平等であり、地域主義ということができる。その意味では、こうした地域主義や多文化主義は、カナダの連邦制や個人主義と矛盾するものでは決していない。それどころか、彼らの多文化主義のエネルギーは、州間の不平等に対する批判、およびケベック州の「特別扱い」に対する反発から生じているのである。

第三は、先住民の問題である。カナダの場合、イヌイトおよびインディアンと呼ばれる人々がこのカテゴ

リーに相当し、その数は決して少なくない。また、カナダ北西部においては、イヌイットは州権を保持し、またインディアンの居留地も多い。ケベック州をカナダ連邦に再度編入するために提案されたミーチレイク協定（一九八七）が、マニトバ州において、キャステイニング・ヴォートを握る先住民の議員の反対によって否決された（一九九〇）という事実が象徴的に示すように、彼らの発言権は決して小さいものではない。この事実もまた、先住民の主張が「独自の社会」ケベックという考え方と調和しにくいという点を示している。

彼らは、まず第一に先住民であり、マジョリティとは異なったライフスタイルと生産活動を維持しようとしている。自然環境との間に独特な関係を維持している。彼らは第二に、自発的にカナダに加わった人々ではなく、武力によって、あるいは開拓民との間の不平等な条約によって、カナダに加わることを強いられた人々である。その意味で、彼らはイギリス系やフランス系の場合以上に「ホームランド」の意識を強くもっている。とはいえ彼らは、今日においては極めて弱い力しか有さず、それゆえ連邦政府の庇護なしには自らの自治を維持できなく

なっている。その意味では、ケベック州の分離独立は、州内に住む先住民にとっては、彼らに対する庇護の終わりとして理解されかねない。先住民の場合、こうした弱体な状況ゆえ、第一に、外部からの保護が必要とされ、第二に、外部とは異なる内部の規範と自治の承認が求められる。しかし、第一の点に關していえば、彼らの地域内への通常のカナダ市民の流入を制限することが必要となり、自由な移動や自由な経済活動が制限されることを意味する。また第二の点に關していえば、先住民の文化とカナダ市民文化との距離の大きさをゆえに、自由や平等といった基本的人権や個人主義と、先住民内部の伝統的価値や「非民主的性格」とが時として対立しやすい。それゆえ、先住民の主張は、ケベックの主張とも地域主義の主張とも大きく異なるのである。

第四は、近年になって、トロント、ヴァンクーヴァー、モントリオールといった大都市に大量に流入しつつあるアジア系移民の問題である。彼らは、「ヴィジブル（可視的）・マイノリティ」と呼ばれ、そこでの主張は、自らの文化や言語の維持というよりも、有色人種に対する人種差別の撤廃であり、平等の実現である。彼らの間には

高学歴者も多く、彼らの使用する論理は機会の平等であり業績主義であることも、この点に強い影響を与えている。こうしたアジア系移民の増加を背景として、カナダの多文化主義政策の力点が、文化や言語の復活から平等の実現へと大きくシフトしてきているのは、よく知られている事実である。

彼らは自発的にカナダに移民してきた人々であり、いってみれば自国を捨ててきたという言い方もできない。それゆえ彼らの文化や言語への権利要求は、上記のウクライナ系などの民族集団と必ずしも同じものではない。とはいえ、彼らもエスニック・コミュニティやエスニック・ネットワークをもち、宗教や民族性を維持しており、自己の文化や言語への関心がまったくないわけではない。ただ、彼らの多くは英語を使用言語としており、彼らの母語の要求は、英語使用に至るまでの過渡的なものであったり、家族や移民コミュニティ内部での使用に限られていることが多い。その意味で、彼らの言語・文化要求は、領域性をもったものではなく、ケベック州の住民や先住民のそれと同じではない。

また彼らの生活する場は、ほとんどが上記の大都市で

あることから、問題の多くは連邦や州のレベルというよりは、むしろ自治体レベルに位置している。その意味では、トロント、ヴァンクーヴァー、モントリオールにおけるエスニック・マイノリティの問題状況は、州は異なるとはいえ、それほど大きく異なるものではない。とはいえ、平等の実現や人権の保護は連邦政府の多文化主義政策によってなされているし、移民の受入れは連邦政府の管轄事項である。それゆえ、アジア系の移民たちもまた、先住民たちと同様に、連邦政府の庇護の下にある。それゆえにこそ、ケベックの分離独立に反対する一大勢力として、こうした新しい移民がクローズアップされることになるのである。ここではケベック・ナショナリズムと移民の主張とが衝突している。本年一〇月の州民投票も、この点をあらためて明らかにする結果となった。

第五は、カナダ・ナショナリズムをめぐる問題である。このカテゴリーは多文化主義の枠内には入らない。しかし、これもカナダという国家の存在を前提とする限りでは、文化的帰属の最も重要なあり方であり、考えておかねばならない選択肢である。カナダは以前は英帝国の一部であり、また今日においても英連邦の構成国であ

る。アメリカ合衆国のような明確な国家理念をもたず、しかも、社会学的現実としても文化的多様性をはらんだ国家である。しかし、アメリカと同様に、市民社会であることも事実であり、市民的価値を尊重する国家でもある。従って、カナダ国家のみに自己のアイデンティティを求める国民は少ないとはいえ、カナダ・ナショナルリズムというものは確かに存在する。連邦制、さらには二言語主義や多文化主義も、こうしたカナダ・ナショナルリズムを何とか維持しようとして採用された妥協の試みということもできる。興味深いのは、こうしたナショナルリズムを主張するのは、イギリス系に代表されるマジヨリティに限られないという点である。新たに入ってくる移民のなかにも、こうしたカナダ・ナショナルリズムを強調し、多文化主義を退けようとする意見がある。すなわち、自分たちがカナダに来たのは、カナダ人になるためであって、エスニック集団の一員になるためではないという意見である。しかし、こうした主張は新しい移民の有能なエリートには該当しても、英語能力が充分ではなく、特別な能力を必ずしも有さない一般の移民にも等しく該当するものであるかどうかは疑問である。それゆ

え、ここではエリートと大衆という階層性の視点を無視することはできない。

3 相互に異なる民族問題の性質

このように現代のカナダに目を向けた場合、多様なアイデンティティないしは帰属のあり方が存在しており、しかも、それらは相互に並列的に存在するものではない。それゆえ多文化主義という場合、どの側面を強調するかによって、異なった多文化主義が登場することになる。ケベックの場合には、先述したように多文化主義という言葉は使用しないが、言語の二元性を要求することによって、ケベックの存在それ自体が、カナダに大きな多元性を付与している。カナダがアメリカ合衆国と最も異なる点は、内部に多数のフランス語系カナダ人がかかえているという事実である。西部諸州の「ホワイト・エスニック」の場合は、祖先言語や遺産文化の保持という形をとって、カナダの文化の多元化に貢献している。この場合、文化という点では、とりわけシンボルの側面が強い。先住民の場合には、移民たちによる開拓と植民によって追い詰められた歴史と、都市生活とは異質なラ

少年少女組織を育てる
全国センター[編]
**いじめ・子ども世界
なにが問題か**

◆地域に子どもの仲間と生活を◆

〈豊かな子ども文化の創造〉
という視点から「いじめ」問
題に取り組む。 ¥1957:税込

渡部昭男 [著]
**障害児の就学・進学
ガイドブック**

障害をもつ子どもたちの学
ぶ権利を保障するために、
知っておきたい学びの場の
選び方を紹介。 ¥1854:税込

坂野 登 [著]
**ヒトはなぜ
指を組むのか**

◆脳とこころのメカニズム◆
指組み・腕組みがあらわす利
き脳のはたらきと脳とこ
ころの仕組を解明。 ¥2678:税込

青木 慧 [著]
**自然に学ぶ
丹波 山猿塾**

企業社会を追及しつづける
青木慧が丹波の山奥に移り
住んだ。合言葉は「大自然さ
ま教えてください」¥1957:税込

青木書店

東京都千代田区神田神保町 1-60
TEL[03]3219-2341FAX[03]3219-2585

イフスタイルの維持が重要な点である。大都市に流入するアジア系移民などの「ヴィジブル・マイノリティ」にとっては、人種や民族性の違いに基づく差別こそが最大の問題であり、平等の実現と反差別が重要な課題である。この最後の場合においては、多文化主義は、むしろ人種・エスニック集団間の平等という課題を担うことになる。

このように多文化主義には多様な側面があり、多文化主義それ自体が複数存在する。それゆえ、こうした事態は「マルチ・マルチ、カルチ、ユラリズム」と呼ぶにふさわしい。それとともに重要なのは、上記の複数の文化的・民族的要求が相互に矛盾し、場合によっては、激しく対

立するという点である。これまでのカナダにおけるミナチレイク協定やシャーロットタウン協定をめぐる論争と挫折をみると、意志形勢の失敗は、何よりも各文化的主張の衝突によって生じているということが出来る。これらの複数の主張を多文化主義という一つの用語によってくくることは不可能であり、むしろ逆に異なる原理的な主張に対して同じ名称を付与すること自体が問題であろう。だとすれば、むしろ多文化主義という言葉によって通常くくられる問題群を分節化し、原理の違いを明確化することこそが望まれる。多文化主義という言葉によって表現される一般的な問題群があるわけではないのである。

ところで、民族や移民の問題を論議する文脈は、今日、大きく拡大している。エスニシティという言葉が市民権を獲得したのは一九七〇年代であったが、この背景には六〇、七〇年代における世界各国における少数民族の運動や権利要求があった。これらは、どちらかというと社会内部におけるエスニック集団や移民に関する問題群といふことができる。こうした問題についての研究に続いて、国民国家内部における多民族性に関心が移り、国民国家それ自体がどのように形成されてきたかについてのナショナルリズムの研究が注目されてきた。E・ホブズボームたちの「創られた伝統」論やB・アンダーソンの「想像の共同体」論をみると、彼らの国家論には国民や国家の人為性や近代性が色濃く出ており、従来のナショナルリズム研究とは異なる新しい質をもっている。そこでは、国民性を所与の文化や民族性から説明するのではなく、むしろ近代化や産業化のなかで人為的に構築されたものとして理解する視点が強い。つまりエスニシティ論と共有するものも多いのである。

また、戦後に起こった大規模な移民の移動と定着によって、西欧諸国に代表される受入れ社会において、社

会への彼らの統合問題が発生し、人々の関心は、移民や少数民族それ自体を対象としたエスニシティの研究にとどまらず、彼らを包含した多民族社会をどのように構築するか、国籍や市民権をどう考えるかという、より広範囲な問題群の研究に、いいかえれば、ナショナルリズムや多民族社会の研究につながっていった。

さらには、移民や外国人労働者に代表される国際労働移動がヨーロッパやアメリカにおいて新たな民族問題となりつつあったその時期に、東欧・旧ソ連における社会主義諸国が崩壊し、イデオロギーが弱体化し、各種の自由化が進展するなかで、民族や宗教が人々にとっての新たな感情の発露となり、ナショナルリズムの問題が噴出することとなった。こうしたナショナルリズムや少数民族の分離独立をめぐる混乱は、旧ユーゴスラヴィアやロシアなどで今日も続いている。その結果、民族問題という点では類似しているが、問題の質としては極めて異なる複数の問題群が、同時に噴出する結果となったといえる。こうしたいくつかの理由によって、今日においては、ナショナルリズム研究は、移民研究やエスニシティ研究と密接に関連する形で議論されるに至っている。従来にお

けるように、エスニシティ研究とナショナリズム研究との疎遠な関係は克服されつつあるといえる。

4 少数民族問題の分節化に向けて

— W・キムリッカの問題提起

少数民族問題には、実は、おおまかにいってこうした二種類が含まれている。それが、多文化主義の一般理論の構築を難しくしている最大の理由であるように思われる。もしそうだとすれば、先述したように少数民族問題をエスニシティとナショナリズムの違いその他に留意しつつ分節化し、その上で統一的に理解することが望まれる。ここでは、そうした一つの試みとして、カナダの政治哲学者 W・キムリッカの議論を紹介してみよう。

キムリッカは、ほとんどの国家が多民族によって構成される国家であるという、今日ではほぼ自明となった考えから出発し、多民族国家を「マルチ・ネーション・ステイト Multination State」と「ポリエスニック・ステイト Polyethnic State」とに分ける。前者は、それ自体が一つの国家となりえたかもしれない複数の「ネーション」によって構成される国家であり、後者は、移民に代

表される、自らの言語や民族性を部分的には放棄し、受入れ社会へと同化する「エスニック集団」を含んだ国家である。ともすると、この二つのマイノリティがいずれも少数民族ということで同一視され、同じ資格で多文化主義を担うものとして考えられ、いずれかのマイノリティを含んだ国家が同じく多民族国家と同一視されることが多いのである。先述したカナダは、実は「マルチ・ネーション・ステイト」という側面と、「ポリエスニック・ステイト」という側面をともにもっている。ケベック州や先住民は前者の問題であり、「ホワイト・エスニック」や「ウィジブル・マイノリティ」などの移民は後者の問題である。

社会的公正に強い関心をもつキムリッカは、こうした観点に立つて複数の少数民族の権利論を展開している。リベラルとコミュニタリアン（個人主義の立場に立つリベラルに対抗して、広義の共同体を重視し、それを議論の基礎におこうとする人々）との論争において、すっぱりと抜けている少数民族などの集団の文化を正面に据えた形で、正義論ともいえるべきものを彼は展開している。彼が定式化しているのは、次の三つのマイノリティの権

利である。

第一は「自治権」であり、第二は「ポリエスニックな権利」であり、第三は「特別代表権」である。⁽⁶⁾例えばケベックは、カナダ内部における「ネーション」であり、それゆえフランス語の公用語規定をはじめとする「特別な社会」としての規定が、ここから引き出されるわけである。これに対して、移民の場合は、自らの国を去ってきており、平等や差別を受けない権利を有し、自らの言語や文化を一定程度保持する権利はもつものの、自らの言語のみで生活を維持したり、他とは区別された閉鎖的なコミュニティをもつ権利はもたない。カナダにおいて、第三の「特別代表権」に該当するのは、インディアンやイヌイトなどの先住民であろう。歴史的事情などによってわずかな力しかもちえず、不利な条件をもった人々の場合、個人主義的な平等の下では、彼らの利害を表明する場は得にくく、それゆえ「アフターマティヴ・アクション」(アメリカの黒人の場合)や、「インディアン居留地」における一定の自治(アメリカ、カナダのインディアンやオーストラリアのアボリジニーの場合)や、国会などでの少数民族のための特別議席(ニュージーランドのマオリ族の場合)などの措置がとられる。

こうした各少数民族の特性に基づく分節化は、現実の政治のなかでは必ずしもなされていない。少数民族として認識される場合でも、各少数民族の特性を無視し混乱した形で、少数民族政策がとられやすい。ここで一例として、アメリカ合衆国において「ヒスパニック」と呼ばれる人々の場合を考えてみよう。キューバや中南米からやってくる人々は移民・難民であり、「ポリエスニックな権利」は要求しうる。しかし、メキシコから越境してやってくる人々の場合は、そもそもこの土地がかつては自らの「ホームランド」という意識が強く、それゆえ通常の移民とは異なり、アメリカ社会への同化志向は弱く、英語の習得への意志も強くない。これに対してプエルトリコ人の場合は、プエルトリコという州でもなければ植民地でもない特殊な法律的地位(「コモンウェルス」と呼ばれる)をもった「ネーション」の出身者というように考えることもできる。もしそうだとすれば、同じく「ヒスパニック」と呼ばれながら、この三種類の少数民族に対する対応や権利の付与は自ずと異なるはずである。しかし、アメリカ合衆国の現実をみた場合、こうした分

節化に向かう志向性は必ずしも強いとはいえない。アメリカでは、むしろ移民や少数民族の問題が、女性やホモセクシュアルなどの「文化問題」と似たものとしてすら扱われるのである。

キムリックの問題提起は、彼が属する国であるカナダにおける民族問題、とりわけケベック問題と先住民問題に大きく影響されるという側面があり、それゆえ、移民・難民の文化的権利については「ポリエスニックな権利」として一括するなど、やや大ざっぱなところがある。こうした弱点を補いつつ、移民・難民がもつ文化的・言語的権利について、さらなる分節化をはかることが要請される。これは今後の課題である。しかし、彼の試みは、少数民族への対応にみられる政策上の相違を考える上で、さらには少数民族とはそもそも何なのかという問題を、それが位置している国家の成立に遡って考える上で、一つの突破口となりうるものである。それはまた、多文化主義に関する議論をさらに一步深める上で、多くの示唆を与えてくれる。われわれは、多文化主義論を、もう一步越えたところに進まなければならぬ。

注

(1) 一九九五年五月二日より六月二日まで、総合研究開発機構(NIRA)によるカナダ多文化主義に関する研究調査旅行により、カナダの各州・各都市の多文化主義に関する政策担当者、ボランティア団体、研究者、政治家などと意見を交換する機会をもった。本稿のテーマについて考えるにあたっては、この研究視察旅行によって得たものが大きい。研究調査旅行を立案された加藤普章氏(大東文化大学)およびNIRAの方々に感謝したい。

(2) カナダの多文化主義について、基本的な知識をあたえてくれるものとしては、A. Fleras & J. L. Elliott, *Multiculturalism in Canada*, Nelson Canada, 1992 などがある。

(3) N. Bissonndath, *Selling Illusions: The Cult of Multiculturalism in Canada*, Penguin Books, 1994.

(4) W. Kymlicka, *Liberalism, Community and Culture*, Clarendon Press, 1989. W. Kymlicka, *Multicultural Citizenship*, Clarendon Press, 1995.

(5) W. Kymlicka, *Multicultural Citizenship*, op. cit.

民族問題に関する文献

全般

梅棹忠夫監修・松原正毅(代表) + NIRA編『世界民族問題事典』(平凡社)

国際社会学・国際関係学

馬場伸也『アイデンティティの国際政治学』（東京大学出版会）

梶田孝道『国際社会学』（放送大学教育振興会）

同編『国際社会学』（名古屋大学出版会）

百瀬宏『国際関係学』（東京大学出版会）

国際労働移動・外国人問題

林瑞枝『フランスの異邦人』（中央公論社）

福岡安則『在日韓国・朝鮮人』（中央公論社）

伊豫谷登士翁・梶田孝道編『外国人労働者論』（弘文堂）

梶田孝道『外国人労働者と日本』（日本放送出版協会）

F・ギヤスパール、C・セルヴァン・シュレーベル『外国人労働者のフランス』（法律文化社）

桑原靖夫『国境を越える労働者』（岩波書店）

R・コーエン『労働力の国際的移動』（明石書店）

宮島喬『外国人労働者と日本社会』（明石書店）

百瀬宏・小倉充夫編『現代国家と移民労働者』（有信堂）

森田桐郎編『国際労働力移動』（東京大学出版会）

同編『国際労働移動と外国人労働者』（同文館）

大沼保昭『単一民族国家の神話を越えて』（東信堂）

徐龍達編『共生社会への地方参政権』（日本評論社）

田中宏『在日外国人』（岩波書店）

D・トレンハルト編『新しい移民大陸ヨーロッパ』（明石書店）

尹健次『異質との共存』（岩波書店）

エスニシティと多文化主義

明石紀雄・飯野正子・田中真砂子『エスニック・アメリカ』（有斐閣）

斐閣

綾部恒雄『現代世界とエスニシティ』（弘文堂）

P・ブルデュー、J・P・パスロン『再生産』（藤原書店）

A・フィンケルクロート『思考の敗北あるいは文化のパラドクス』（河出書房新社）

F・ド・フォンテット『人種差別』（白水社）

N・グレイザー、D・P・モイニハン『人種のるつばを越えて』（南雲堂）

同編『民族とアイデンティティ』（三嶺書房）

石川一雄『エスノポリティクスと政治統合』（有信堂）

『岩波講座 社会科学の方法 VII 政治空間の変容』（岩波書店）

梶田孝道『エスニシティと社会変動』（有信堂）

小林哲也・江淵一公編『多文化教育の比較研究』（九州大学出版会）

上坂昇『アメリカ黒人のジレンマ』（明石書店）

松井清『教育とマイノリティ』（弘文堂）

宮島喬・藤田英典編『文化と社会』（有信堂）

中野秀一郎・今津孝次郎編『エスニシティの社会学』（世界思想社）

NIRA編『民族に関する基礎研究』（総合研究開発機構）

A・シュレジンガー『アメリカの分裂』（岩波書店）

J・レックス『人種問題の社会学』（三嶺書房）

J・ロスチャイルド『エスノポリティクス』（三省堂）

佐久間孝正『イギリスの多文化・多民族教育』（国土社）

関根政美『マルチカルチュラル・オーストラリア』（成文堂）

同『エスニシティの政治社会学』（名古屋大学出版会）

鈴木清史『アポリジニー』（明石書店）

竹沢泰子『日系アメリカ人のエスニシティ』（東京大学出版会）

山内昌之・民族問題研究会編『入門・世界の民族問題』（日本経済新聞社）

横田耕一『アメリカの平等雇用——アファーマティブ・アクション』（部落解放研究所）

ナシヨナリズムと民族・宗教

B・アンダーソン『想像の共同体』（リブポート）

B・パディ、P・ビルンボーム『国家の歴史社会学』（日本経済評論社）

蓮實重彦・山内昌之編『いま、なぜ民族か』（東京大学出版会）

初瀬龍平編『エスニシティと多文化主義』（同文館）

E・ホプズボウム、T・レンジャー編『創られた伝統』（紀伊國屋書店）

梶田孝道編『ヨーロッパとイスラム』（有信堂）

宮島喬・梶田孝道編『現代ヨーロッパの地域と国家』（有信堂）

同編『統合と分化のなかのヨーロッパ』（有信堂）

日本経済新聞社編『宗教から読む国際政治』（日本経済新聞社）

D・ローネン『自決とは何か』（刀水書房）

A・スミス『20世紀のナシヨナリズム』（法律文化社）

田中克彦『ことばと国家』（岩波書店）

同『言語からみた民族と国家』（岩波書店）

月村太郎『オーストリア・ハンガリーと少数民族問題』（東京大学出版会）

山内昌之『現代のイスラム』（朝日新聞社）

同『スルタンガリエフの夢』（東京大学出版会）

同『瀕死のリヴァイアサン』（TBSブリタニカ）

同『民族と国家』（岩波書店）

小熊英二『単一民族神話の起源』（新曜社）

地域統合・グローバリゼーション

A・ギデンズ『近代とはいかなる時代か？』（而立書房）

羽場久澄子『統合ヨーロッパの民族問題』（講談社）

今福龍太『クレオール主義』（青土社）

伊豫谷登士翁『変貌する世界都市』（有斐閣）

『岩波講座 社会科学の方法 XI グローバル・ネットワーク』（岩波書店）

梶田孝道

『新しい民族問題——EC統合とエスニシティ』（中央公論社）

同『統合と分裂のヨーロッパ——EC・国家・民族』（岩波書店）

鴨武彦編『講座 世紀間の世界政治』全六巻（日本評論社）

木戸義編『講座国際政治 3 現代世界の分離と統合』（東京大学出版会）

西川長夫『国境の越え方』（筑摩書房）

西川長夫『地球時代の民族Ⅱ文化理論』（新曜社）

西川長夫・宮島喬編『ヨーロッパ統合と民族・文化問題』（人文書院）

町村敬志『「世界都市」東京の構造転換』（東京大学出版会）

宮島喬『一つのヨーロッパ いくつものヨーロッパ』（東京大学出版会）

坂本義和編『世界政治の構造変動』全四巻（岩波書店）

S・サッセン『労働と資本の国際移動——世界都市と移民労働者』（岩波書店）

J・トムリンソン『文化帝国主義』（青土社）

I・ウォーラステイン『史的システムとしての資本主義』（岩波書店）

W・ウォーレス『西ヨーロッパの変容』（岩波書店）

梶田孝道（かじた・たかみち）

一九四七年生、一九七二年東京大学文学部卒業、一九七七年東京大学大学院社会学研究科博士課程修了、現在一橋大学社会学部教授（国際社会学）

主要著書

『エスニシティと社会変動』（有信堂）、『テクノクラシーと社会運

動』（東京大学出版会）、『新しい民族問題』（中央公論社）、『統合と分裂のヨーロッパ』（岩波書店）、『外国人労働者と日本』（日本放送出版協会）、『国際社会学』（放送大学教育振興会）、『国際社会学』（編、名古屋大学出版会）、『イスラムとヨーロッパ』（編、有信堂）など

第十一回 特約店・準特約店の選定を終えて

調査・研修委員会 濱地 正憲（誠信書房）

一九七四年に発足しました特約店制度は今回の調査で第十一回目となり、二十年を超えたことになります。

九四年末までの一年間の売り上げスリップの枚数を集計し、常備寄託数の合計をもって、今年三月に調査を始めまして、このたび特約店様・準特約店様を選定させていただきました。

特約店制度の内容は、相互に交わっています「覚書」の抜粋ですが、左記のようになっております。

一、甲は乙に対し甲の発行する人文図書の新刊（重版）を優先的に委託配本する。但し買切品・限

定版については別とする。乙は委託配本された新刊（重版）を委託期間中、原則として全期間展示する。

配本部数決定については、乙の申し込みによる方法を原則とする。

二、乙は甲のうち一三社以上と個々に常備寄託契約を締結する。甲は乙の常備寄託の申し込みを優先して扱う。

三、乙は甲の発行する人文図書を常時一、一五〇冊以上展示する。甲はその発行図書のうち、人文

図書のみ常備寄託の出品を可能にする。

四、乙は甲の発行する人文図書を、年間三、四〇〇冊以上販売することを基準とし、甲は乙に対し出品する常備図書について、年三回転以上するよう品目選定に留意する。

五、甲は乙に対し甲の売行良好書を機に応じ連絡し、乙はそれによって在庫の整備を行う。

六、乙は甲に対し「売上カード」を定期的に各出版社へ送付する。甲は乙に可能なかぎりその分析をして報告する。

七、甲は乙より送付された「売上カード」に基づき販売協力金（手数料）を支払うことを原則とする。

八、甲は乙の書店を「哲学・思想図書総目録」「心理図書総目録」「社会図書総目録」に記載し、各社の図書目録などにも紹介して読者に対するPRにつとめる。

九、甲は「人文会ニュース」および「新刊月報」を乙の書店に配布する。

この他、二三社全社にて特約店・準特約店様を順番に

表1 店数推移

	特約店	準特約店	計
74	188		188
76	190	72	262
78	197	80	277
80	220	98	318
82	161	75	236
84	165	88	253
86	138	140	278
88	139	140	279
90	164	102	266
92	150	86	236
94	100	125	225

訪問させていただき、研修会を行ったり、情報の交換をさせていただいております。これも特約店制度の一環と位置付けております。

さて、今回の調査結果ですが、特約店一〇〇店、それに準じます準特約店一二五店となりました。店数の推移は表1のとおりで、特約店様の数が激減し、準特約店様の方へ移ってしまい、人文図書の展示がますます厳しくなっていることを痛感している次第です。

しかしながら、巻末の表2ですが、前回の特約店・準特約店様と今回の特約店・準特約店様の人文書の常備寄託数・売上げスリッパ数を異別に集計し、それを比較し

たものです。(今回の調査よりミネルヴァ書房の入会で、二三社ですが、この表は、前回比較のため二三社で比較してあります。)

この表の全国計を見ますと、人文書の常備寄託数は、三八〇、九四一冊で、マイナス三八、六一三冊・九〇・七%となり、その売り上げ冊数では、一、五九一、四一九冊で、プラス五一、四三五冊・一〇三・三%となっています。また、回転数は、三・六七回転から四・一七回転と上がっております。県単位で細かく見ますと、増減がかなり見られますが、全体としては、常備寄託数が、減少し、売り上げ冊数が伸び、回転数が上がっていることを見ますと、店舗それぞれが効率化を計られていること

と、人文書の専門読者層が集約化へ向かっていることが言えるのではないかと思います。

しかし、もう一方では、人文書の基本図書といわれる書籍が、相当数の書店様に展示されることで、かなりの売り上げがあり、成功している方式もありますので、展示の仕方によっては、人文書の専門読者層の広がりと深さがまだまだあるのではないかと感じております。

最後の表3ですが、今回選定させていただきました特約店・準特約店様を掲載させていただきました。

今後とも、一層のご高配とご鞭撻をお願い申し上げます。次第でございます。

〈ハーバマスの社会主義論〉

「遅ればせの革命」と
批判理論(豊泉周治)

〈人間論〉

コミュニケーション的行為
と人間・社会観(尾関周二)

〈合理化論〉

生活世界と合理化(橋本直人)

吉田傑俊・尾関周二・渡辺憲正編

A5判力バ
30000円

ハーバマスを読む

ハーバマス思想
の現代的可能性
と問題点を論じる

意識哲学から文化的コミュニケーション論へ(水野邦彦)

〈学問論〉

認識関心と批判的社会科学の構想(渡辺憲正)

〈マルクス論〉

ハーバマスとマルクス(吉田傑俊)

〈道德論〉

ディスクール倫理学とポップズの問題構成(亀山純生)

大月書店

東京都文京区本郷2-11-9
電話03(3813)4651(代表)

表2 人文会特約書店比較（特約・準特約書店のみ）

県	92年10月						94年12月						常前回 比較数	常前回 比較%	売前回 比較数	売前回 比較%
	人 常 備 数	占 有 率	特約 店 数	準特 約 店 数	人 売 上 数	占 有 率	人 常 備 数	占 有 率	特約 店 数	準特 約 店 数	人 売 上 数	占 有 率				
北海道	13,677	3.26	5	4	35,894	2.33	11,209	2.94	4	4	40,706	2.56	-2,468	82.0	4,812	113.4
青森	3,887	0.93	1	2	8,146	0.53	4,372	1.15	2	1	11,618	0.73	485	112.5	3,470	142.6
秋田	567	0.14	0	1	2,643	0.17	457	0.12	0	1	2,937	0.18	-110	80.6	294	111.1
岩手	4,383	1.04	1	3	6,835	0.44	4,080	1.07	1	3	8,000	0.50	-303	93.1	1,165	117.0
山形	2,176	0.52	1	1	5,974	0.39	1,474	0.39	1	0	4,441	0.28	-702	67.7	-1,533	74.3
宮城	10,119	2.41	5	2	35,373	2.30	7,333	1.92	4	1	32,327	2.03	-2,786	72.5	-3,046	91.4
福島	2,942	0.70	2	0	4,670	0.30	1,033	0.27	0	1	2,081	0.13	-1,909	35.1	-2,589	44.6
茨城	8,504	2.03	4	1	13,453	0.87	6,968	1.83	2	2	14,822	0.93	-1,536	81.9	1,369	110.2
栃木	194	0.05	0	1	836	0.05	2,623	0.69	0	2	3,577	0.22	2,429	1,352.1	2,741	427.9
群馬	2,925	0.70	1	2	7,970	0.52	1,429	0.38	1	0	5,197	0.33	-1,496	48.9	-2,773	65.2
埼玉	9,633	2.30	3	4	21,397	1.39	8,553	2.25	1	6	19,320	1.21	-1,080	88.8	-2,077	90.3
千歳	12,064	2.88	6	3	27,007	1.75	10,971	2.88	5	4	37,416	2.35	-1,093	90.9	10,409	138.5
神奈川	24,952	5.95	12	3	85,357	5.54	24,520	6.44	9	7	104,299	6.55	-432	98.3	18,942	122.2
東京区	103,914	24.77	30	19	547,438	35.55	93,967	24.67	20	19	537,871	33.80	-9,947	90.4	-9,567	98.3
都下	18,396	4.38	9	4	72,353	4.70	20,676	5.43	6	9	76,619	4.81	2,280	112.4	4,266	105.9
静岡	10,289	2.45	4	3	25,839	1.68	8,658	2.27	3	4	28,707	1.80	-1,631	84.1	2,868	111.1
愛知	35,448	8.45	10	3	84,015	5.46	27,873	7.32	9	4	94,176	5.92	-7,575	78.6	10,161	112.1
岐阜	3,746	0.89	1	2	7,662	0.50	3,010	0.79	1	1	7,781	0.49	-736	80.4	119	101.6
三重	2,181	0.62	1	1	6,806	0.44	2,529	0.66	1	1	6,685	0.42	-52	98.0	-121	98.2
山梨	0	0.00	0	0	0	0.00	0	0.00	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0.0
長野	1,231	0.29	1	0	3,093	0.20	2,106	0.55	1	1	4,654	0.29	875	171.1	1,561	150.5
新潟	3,583	0.85	2	1	12,232	0.79	3,764	0.99	1	2	16,755	1.05	181	105.1	4,523	137.0
富山	2,279	0.54	1	2	9,055	0.59	1,742	0.46	0	2	6,448	0.41	-537	76.4	-2,607	71.2
石川	6,651	1.59	2	3	18,415	1.20	5,166	1.36	1	2	14,203	0.89	-1,485	77.7	-4,212	77.1
福井	1,394	0.32	1	0	3,056	0.20	1,294	0.34	1	0	5,014	0.32	-40	37.0	1,958	164.1
京都	24,728	5.89	8	2	107,856	7.00	22,382	5.88	6	2	95,785	6.02	-2,346	90.5	-12,071	88.8
滋賀	0	0.00	0	0	0	0.00	1,122	0.29	0	1	28	0.00	1,122	0.00	28	0.00
大阪	30,640	7.30	9	3	178,112	11.57	28,525	7.49	6	7	192,769	12.11	-2,115	93.1	14,657	108.2
兵庫	25,855	6.16	5	3	48,415	3.14	17,728	4.65	4	5	51,738	3.25	-8,127	68.6	3,323	106.9
奈良	0	0.00	0	0	0	0.00	0	0.00	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0.0
和歌山	2,178	0.52	1	0	2,759	0.18	2,121	0.56	1	0	3,660	0.23	-57	97.4	901	132.7
鳥取	1,896	0.45	1	1	2,756	0.18	722	0.19	0	1	2,355	0.15	-1,174	38.1	-401	85.4
島根	2,182	0.52	1	1	4,430	0.29	2,327	0.61	0	2	3,720	0.23	145	106.6	-710	84.0
岡山	6,359	1.52	3	1	15,328	1.00	6,346	1.67	2	2	18,376	1.15	-13	99.8	3,048	119.9
広島	6,977	1.66	3	2	28,297	1.84	6,147	1.61	1	3	21,520	1.35	-830	88.1	-6,777	76.1
山口	1,056	0.25	1	0	2,527	0.16	1,004	0.26	0	1	2,756	0.17	-52	95.1	229	109.1
香川	2,993	0.71	1	0	13,015	0.85	2,387	0.63	1	0	14,765	0.93	-606	79.8	1,751	113.5
徳島	1,257	0.30	0	0	2,137	0.14	1,287	0.34	0	1	562	0.04	30	102.4	-1,575	26.3
愛媛	5,013	1.19	2	1	9,878	0.64	3,742	0.98	1	3	14,555	0.91	-1,271	74.6	4,677	147.3
高知	1,722	0.41	1	0	4,070	0.26	901	0.24	0	1	4,975	0.31	-821	52.3	905	122.2
福岡	12,183	2.90	5	3	43,754	2.84	12,926	3.39	2	8	47,074	2.96	743	106.1	3,320	107.6
佐賀	0	0.00	0	0	0	0.00	0	0.00	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0.0
長崎	1,285	0.31	1	1	5,992	0.39	1,102	0.29	1	0	4,136	0.26	-183	85.8	-1,856	69.0
宮崎	0	0.00	0	0	0	0.00	0	0.00	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0.0
熊本	2,882	0.69	1	2	7,748	0.50	3,095	0.81	1	2	12,280	0.77	213	107.4	4,532	158.5
大分	993	0.24	1	0	2,015	0.13	6,809	1.79	0	4	3,144	0.20	5,816	685.7	1,129	156.0
鹿児島	2,234	0.53	2	1	12,998	0.84	2,050	0.54	0	3	7,966	0.50	-184	91.8	-5,032	61.3
沖縄	1,646	0.39	1	0	2,378	0.15	2,411	0.63	0	2	3,602	0.23	765	146.5	1,224	151.5
計	419,554	100.00	150	86	1,539,984	99.99	380,941	100.02	100	125	1,591,419	99.97	-38,613	90.7	51,435	103.3
平均/ 1店	1,777冊		236		6,525冊		1,693冊		225		7,072冊					
					3.67回転						4.17回転					

表3 人文会特約店・準特約店一覧

北海道 ブロック	特約店	準特約店
札幌 " " " " " " 丸善札幌南一条店	札幌 東京旭屋書店札幌店 紀伊國屋書店札幌店 バルコブックセンタ ー富貴堂 丸善札幌南一条店	札幌 北大学生書房クラ ーク店 リーブルなにわ 丸善らがーる新札幌 DUO店 リプロ函館店
東北 ブロック	青森 成田本店 弘前 紀伊國屋書店弘前店 盛岡 東山堂書店	弘前 弘前大学生協 加賀谷書店 盛岡 東山堂ブックセン ター " " " " 第一書店 さわや書店
北関東 ブロック	山形 八文字屋書店 仙台 金港堂 " " 金港堂ブックセン ター 丸善一番町店 " " 東北大学生協川内店 水戸 ツルヤブックセン ター 筑波 丸善筑波大学会館書 籍部 前橋 煥平堂	水戸 川又書店駅前店 筑波 丸善筑波第一学群書 籍部 " " 宇都宮 新屋宇都宮店 宇都宮ブックセン ター

首都圏 (3県) ブロック		浦和 須原屋
千葉 多田屋セントラルブ ラザ店 " " 千葉そごうブックセ ンター 船橋 旭屋書店船橋店 リプロ船橋店 柏 新屋堂カルチェ5柏 店 横濱 有隣堂本店 " " 有隣堂西口店 " " 有隣堂東口ルミネ店 " " 栄松堂書店ジョイナ ス店 川崎 有隣堂Bエ店 藤沢 有隣堂藤沢店 " " リプロ藤沢店 小田原 伊勢治書店 厚木 有隣堂厚木店	千葉 多田屋セントラルブ ラザ店 " " 千葉そごうブックセ ンター 船橋 旭屋書店船橋店 リプロ船橋店 柏 新屋堂カルチェ5柏 店 横濱 有隣堂本店 " " 有隣堂西口店 " " 有隣堂東口ルミネ店 " " 栄松堂書店ジョイナ ス店 川崎 有隣堂Bエ店 藤沢 有隣堂藤沢店 " " リプロ藤沢店 小田原 伊勢治書店 厚木 有隣堂厚木店	浦和 須原屋 大宮 ブックセンター押田 新栄堂書店大宮駅ビ ル店 " " 三省堂書店ブックボ ーイト大宮店 " " 所沢 芳林堂書店所沢店 " " バルコブックセンタ ー新所沢店 " " 千葉 キティランド千葉店 千葉大学生協

北陸・ 甲信越 ブロック	長野 平安堂長野店	新潟 紀伊國屋書店新潟店	金沢 うつのみ片町本店 勝木書店	京都 駿々堂京宝店 丸善京都支店 京大ブックセンター ルネ 立命館大学生協 アバンティブックセ ンター ジュンク堂書店京都 店	大阪 旭屋書店本店 紀伊國屋書店梅田本 店	吹田 旭屋書店アベノ店 旭屋書店ナンバ店 関西大学生協 ジュンク堂書店三宮 店	神戸 ジュンク堂書店ブッ クセンター コーベブックス三宮店
	松本 パルコブックセンタ ー	新潟 萬松堂 新潟大学生協 富山 清明堂書店 文苑堂書店 北国書林香林坊本店 金沢 金沢大学生協角間店	京都 同社社大学生協今出 川店 龍谷大学生協深草店 三洋堂書店大津店	大阪 駿々堂京橋店 紀伊國屋書店心斎橋 店	豊中 大坂市立大学生協 大阪大学生協豊中店 東大阪 ヒバリヤ書店本店 栗林書房 神戸 神戸大学生協 甲南大学生協 関西学院大学生協 ジュンク堂書店明石 店	明石 ジュンク堂書店ブッ クセンター	

中国 ブロック	神戸 海文堂書店 和歌山 宮井平安堂	岡山 紀伊國屋書店岡山店 〃 丸善岡山シンフォニ ー店 広島 紀伊國屋書店広島店	四国 ブロック 高松 宮脇書店 松山 紀伊國屋書店松山店	九州・ 沖縄 ブロック 福岡 りーぶる天神 〃 紀伊國屋書店福岡店 長崎 好文章書店
鳥取 富士書店 松江 今井書店 岡山 大学前岡山書店 細謹舎 ブックマスタースー パー 岡山 丸善広島本通り店 〃 そごうブックセンタ ー 広島 丸善大学生協 山口 文栄堂書店 徳島 小山助学館徳島駅東 口店 松山 丸三書店 〃 				

		熊本 紀伊國屋書店熊本店	
久留米	熊本	大分	鹿兒島
エマックスたがみ	熊本	本町晃星堂	金海堂
ブックスまるぶん	熊本	バルコブックセンタ	春苑堂書店
		ー大分店	鹿兒島
		明星書店大分店	那覇
		ジュンク堂書店大分	球陽堂書房
		店	西原球陽堂

人文会研修旅行小報告

弘報委員会 土屋知可夫（福村出版）

人文会が年一回実施している研修旅行（小会の特約店・準特約店を中心に訪問及び研修を行います）を一月四日から四日間にわたって行いました。今回の訪問地は、大分・北九州・福岡・長崎の各市です。人文会としては一年ぶりの訪問になります。

この旅行には会員社二三社と一緒に各販売会社から阿部信行書籍営業部課長（トーハン）、橋本康司書籍部課長（日販）、土屋利雄取締役販売部長（鈴木書店）三氏にご同行いただきました。

次に簡単に日程を紹介いたします。

・四日（水）

大分・パルコBC大分店・晃屋堂書店・ジュンク堂書店大分店訪問・研修

北九州・紀伊國屋書店小倉店・ナガリ書店・井筒屋BC訪問・研修

・五日（木）

福岡・トーハン九州支店・日販九州支店・金文堂・積文館・紀伊國屋書店福岡店・丸善IMS店・リーブル天神・九州大学文系店訪問・研修

・六日（金）

伊万里・伊万里図書館見学

長崎・好文堂書店訪問・研修

各日の夜は、各地の書店さん・販売会社の方々にご参加いただき懇談会を開催し情報交換及び親睦を深めました。

小会のために貴重なお時間とさまざまなご配慮を賜り

ましたことを厚く御礼申し上げます。

会員社の中には、上記の書店さんを定期的に訪問している社もあるでしょう。しかし、担当が違うために初めて、あるいは何年かぶりで訪問する社もあると思います。実際に見て感じたこと、そしていろいろの話のなかから纏んだことを今後の販売促進にどの様に生かしていくかは会員社の責務と思います。

さて、今回の旅行で感じたことをひとつだけ記してみたいと思います。

大分・北九州・福岡には、四〇〇坪から五〇〇坪の大型書店さんが既にあります。また、福岡市内に二つの巨大なショッピング・ゾーンが数年の内に完成するとも聞きました。当然、これらのショッピング・ゾーンには書店が来店することになります。

九四年の書籍・雑誌の県別一人当たりの年間購入額の統計をみると、

福岡…一五、三三三円

大分…一二、四一六円

長崎…九、九二二円

なっています（全国平均は一四、五五三円。ちなみ

に東京は二七、三〇八円、大阪は一八、九八五円）。

各県の所得差がありますのでこれらの数値だけで判断することはできないと思います。しかし、パソ・コン・ネットワークの普及に代表されるように地域差による情報格差が少なくなっている現在、「知的好奇心」の差（質と時間）も少なくなっていると考えます。「年間購入額」の増加は十分見込めると思います。

では専門書出版社がやらなければならないことはなんでしょうか。小会では機会あるごとに行っていますが、展示方法（棚づくり）を書店さんと一緒に考え、そして各人文書の分野毎に基本的なマニュアルを作成することだと思っています（二五周年記念『人文書のすすめ』はマニュアルの一つです）。棚担当者は数年（短い時は数カ月）経過すると交替するところが多いでしょう。担当者が交替しても展示の基本がくずれないようにしていく、継続することによってより良い展示が出来上がっていくと思います。

読者のための出版流通改善

——その現状分析と課題

一九九五年九月

社団法人 日本書籍出版協会
社団法人 日本雑誌協会

目次

読者のための出版流通改善

1. 出版情報インフラ整備の必要性

- (1) 新刊・近刊情報は一〇〇パーセント読者に活かされているか
- (2) 既刊書籍のぼう大な点数！ 読者は本探しに悲鳴をあげる
- (3) 書店が刊行情報を仕入に役立てる環境を整備すべきだ
- (4) 書店店頭での入手可能の情報が読者のイライラを解消、信頼を回復させる
- (5) 取次会社・書店間では単店・単品管理のシステムの整備が期待される
- (6) 流通倉庫における在庫管理の電子化が調達のスピードアップとサービス向上を達成
- (7) 出版社は店頭の売行情報を得て決断する
- (8) 少量出版、少数書店陳列の書籍こそインフラ整備が求

められる

2. インフラ整備の現況

- (9) コード体系の充実
- (10) 書籍マスター・ファイルと各種データベースの現状
- (11) 出版社のコンピュータ装備状況
- (12) 取次会社のコンピュータ装備状況
- (13) 書店SA化の現状
- (14) 取次会社と書店のネットワーク
- (15) 図書館の検索機能
3. 出版業界統一VANの構築
4. 出版業界統一VAN設立に向けての環境整備状況
5. 出版物の情報流通と物流改善のポイント

読者のための出版流通改善

——その現状分析と課題

欲しい本が手に入れない。やたらに待たされる。

注文した本が有るのか無いのかすらも判らない。

いつ入手できるのかぐらいは教えてほしい。e.c. e.c.

今日、出版業界は読者の利便性を考えるとき、流通面において様々な問題を内包しています。そうした出版流通上の問題点の改善は業界の健全な発展のために期待されるばかりでなく、再販制という特典を与えられている業界として、読者の要望に答えるための義務でもありません。

出版物は一部の雑誌やベストセラー書籍が大量に生産・販売されているものの、基本的には多品種少量生産の商品であり、メーカーに相当する出版社の数が非常に多い（約六、〇〇〇社）という特色を持ちます。また他の一般消費財と違って代替性の乏しい商品であるた

め、読者の注文に応じて「求める一冊」を調達しなければならぬという宿命を負っています。しかも諸物価に比べて低い定価推移のもとで、改善のための資金も捻り出さなければならぬという状況下にあります。

このように厳しい条件・制約のもとではありますが、各種メディアの多様化が進むなかで読者の活字離れ傾向が憂慮されている昨今、出版界にとって流通改善は何としても早急にかつ具体的に実現させる必要があると考えます。

出版流通の改善に取り組むに当たっての要件をあげるとすれば、①出版物が多品種であることへの対応、②「求める一冊」という個別性への対応、③迅速性や経済性など効率化への対応、と言っている点であります。これらの要件に対処していくためには、流通に関わる「情報の整備」とその「効率的な運用」が不可欠であることは言うまでもありません。

すなわち、「情報の整備」とは、商品の検索情報や売上げ情報あるいは受発注情報や返品情報などを電子情報化することであり、その「効率的な運用」とは、それらの電子化された情報を一定の約束事に従って時間的・経済

的な合理性のもとで運用することです。これも個々の企業間でのやりとりというレベルを超えて、業界のインフラとして結実させる必要があります。ここに業界統一的なV A Nの実現を図りたいと願うそもその理由があります。

幸いわが業界には、書籍についてはI S B Nコードという電子化が可能な基盤整備が、先人たちの一五年の長きにわたる努力によって今まさに完全普及の段階に到りました。また雑誌については商品进行を特定するという点で若干の不備はあるものの、共通雑誌コードが定められ、バーコードの普及率は一〇〇パーセントに達するなど、情報ネットワーク整備のための素地は整いつつあるといえます。こうした環境を讀者、書店、取次会社、出版社それぞれに生かすために、インフラ整備の現状を「コード」、「コンピュータ整備の状況」、「データベース」、「書店S A化」などの面から見つめ直し、そうした環境に立脚して業界統一V A Nに向けての現在の状況と今後の展望について述べることにします。

1. 出版情報インフラ整備の必要性

(1) 新刊・近刊情報は一〇〇パーセント讀者に活かされているか

毎朝、毎夕目にする新聞の広告欄。たくさんの商品群が目につくが中でもコンスタントに掲載されているのは書籍の新刊案内、重版の告知、雑誌の発売広告といった出版物の広告である。ある統計で見ると、朝日・毎日・読売・産経・日経といういわゆる中央五紙における一九九四年一月～二月の一年間の出版広告は約六七、二〇〇段に達している。

雑誌の発売広告は、日本の雑誌流通の整備のおかげで出広されたその日に讀者が書店に行けば、当該雑誌をほぼ一〇〇パーセント入手できる。これはまさに刊行の告知が発売と密接にリンクして、発売直後から一週間～一〇日間という短期間のうちに極めて高い比率で讀者の手に渡る好例である。

一方、書籍では新刊、重版の新聞広告による告知は雑誌と同じレベルで活かされているであろうか。文庫・新

書を除く一般的書籍の初版発行部数は平均で約五、〇〇〇部と言われる。したがって全国二〇、〇〇〇余店の書籍取扱いの書店（CVS、駅販売などといった売場を除く）に新刊配本が行きわたるという状況にはほど遠く、いわゆる大手書店の店頭には辛うじて並べられるが、全体としては読者との接点が極めて少ない環境に置かれていると言わざるをえない。ベストセラーを狙う書籍は初版部数も比較的大きく、多くの書店に行き渡ると考えられるが、小部数からスタートすることの多い専門書などでは新刊配本すらない書店が圧倒的に多数を占める。ましてや書店のない地域の読者にとっては、新聞広告で辛うじて得られた新刊情報を活かしてその本を入手したり、あるいは在庫を確認することはむずかしい状況にある。大変乱暴な仮説であるが、前述の六七、二〇〇段の出版広告のうち半分が書籍に使われ、一段当たり五タイトルの新刊書籍が紹介されるとすると、（六七、二〇〇× $\frac{1}{2}$ ×五）一六八、〇〇〇タイトルの書籍が広告される勘定になる。これだけの情報量が新聞広告からさらに一歩踏み込んで流通上の情報整備と結び付けば、購入の機会拡大に一層役立つことになるのではあるまいか。

こうした環境の整備を見越して広告にISBNコードを掲載しはじめた出版社も徐々に増えはじている。

(2) 既刊書籍のほう大な点数！ 読者は本探しに悲鳴をあげる

手元にある出版年鑑（出版ニュース社発行）のデータを見てみよう。一九八五年～一九九四年の一〇年間に出版された新刊書籍の総数は約四〇八、〇〇〇点である。その前の一〇年間で約三〇〇、〇〇〇点出されたと仮定すると、この二〇年間に七〇万点の書籍が生まれたことになる。さらにそれ以前に刊行された書籍を加えてみると、いったいどれくらいの書籍が日本の中で出され続けてきたのであろうか。ところが一方で書籍は流通上の生命が終える時が必ずくる。新刊として発刊されたものの、絶版となったり品切れのまま重版されていないため読者が入手不可能となっている出版物をその中から削除していった、いわゆる稼働している出版物の点数は一体何点になるのか正確には把握しにくい状況となっている。おおよそ四〇万点～五〇万点は稼働していると言われているが、(株)日本書籍出版協会が発行している、「日本

書籍給目録」一九九五年版には六、〇三〇社四九〇、二六九点の書籍が掲載されているところを見れば、このあたりが妥当な数字と言えそうである。

現実にはトーハンの書籍データベースには約一二〇万点の書籍のデータが収録されているというが、稼働・非稼働という整理がされていないために、読者は自分の欲しいと思う本が現在入手可能かどうかを確かめるには、結局、直接出版社に問い合わせるのが最も確実な方法というのが現実である。現在のデータベースがすべてクリーニングされて、既刊書籍の稼働状況（在庫情報）が明確にされてはじめて読者へのサービスの充実が図れると言える。ただそのためには、六、〇〇〇社と言われる全出版社のデータクリーニングをすべて取次会社に依存するというのは非現実的である。あくまでも出版社による責任あるデータ提供という業界慣行が必要であり、またそうしたデータ提供を大手出版社でも零細出版社でも大きな負担なしで行えるような業界のセンター機能の誕生が待ち望まれる。

(3) 書店が刊行情報を仕入に役立てる環境を整備すべきだ

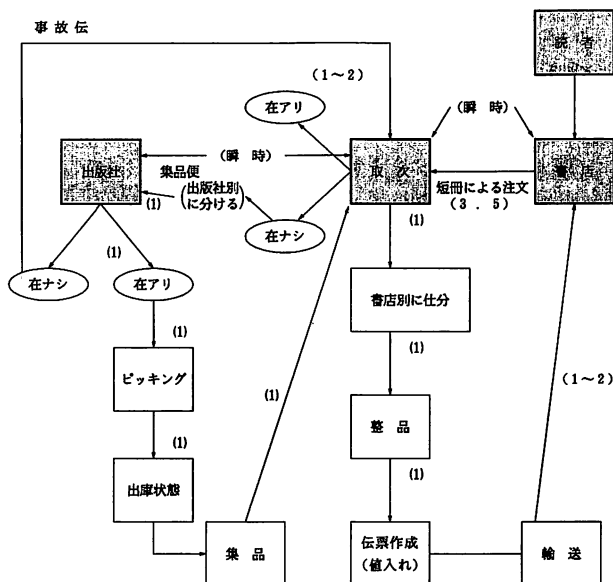
取次会社から書店への刊行情報の伝達には次第に電子化が進みつつあり、なかでも雑誌の配本・返品データ等の交換には威力を発揮しはじめている。書籍の新作は予め取次会社の仕入窓口によって搬入日（発売日）、仕入数（配本数）が確定されている。したがって書店では〇月〇日に、何という書籍が何冊入荷するかという情報は入手できる仕組みになっている。ところが、現状では一日に約一四〇点近い新刊書籍のうち、自店には何が何冊入荷するかという情報は、発売当日入荷して初めて知る、という書店がほとんどである。予め入荷をチェックし不足のものを発注するという能力は養われず、入荷したものを店頭に並べながら、過不足をチェックするという方法が習い性となってきたことがその原因であろう。ましてや取次店の広報誌他の新刊情報により、自店の必要数を発売前に的確に取次に伝えておく、といった仕入能力を備えた書店はまだ極めて少ないというのが現状である。

しかしながら、前述のごとく自店の単品別入荷状況が

また、もう少し情報提供と受け手側の環境が整い予め知らされている既刊予定に對して、それを事前に発注し、SA機器の中に記憶させておいて入荷後チェックするという作業形態が確立されるようになれば、一層書店の商品仕入能力は高められ、読者へのサービス向上も期待される。こうした環境の整備が急がなければならない。

新刊にしる、既刊にしる読者の必要とするものを予測して発注する（補充注文）能力を備えた書店が少ないことに加えて、注文を出した（客注）書籍が入手は確実なのか、入手までにはどのくらい時間がかかるのかお客様に返事もできず、1カ月近くも待ち続けてようやく入荷したりという状況が現在の姿である。こうして読者、書店ともにイライラがつのり、読者の出版界に対する不信

事故伝



感が強まってくる。こうした問題が解決できれば、書店の悩みの種である客注問題は一挙に解決できることになる。また、書店の売上増にも確実につながっていく。さらに、こうした電子情報化された発注・受注は、従来の短冊郵送による現在の標準的業務を格段にスピードアップさせることができる。別表の書店↓取次会社↓出版社の間のスピードが早まるだけでも（仮に物流が現状のままであっても）確実に数日の短縮につながる。

(5) 取次会社・書店間では単店・単品管理のシステムの整備が期待される

書店・取次会社・出版社のうち、業務の処理面で最もコンピュータ化できているのは取次会社と言えるだろう。書籍の新作についても仕入、配本等にコンピュータの威力が発揮されつつあると言えるが、雑誌に比べると単店・単品の管理システムがまだまだ不十分である。雑誌の場合は送品・返品とも原則的に一回きりのため、単店・単品毎の実績がほぼ完璧にとらえられており、次号の配本データに活用されている。これに対して書籍は追加送本が不定期かつ不規則に生じるため、そのデータの

補足は雑誌に比べむずかしく、当然ながらデータ活用的一面でも著しく劣っており、今後の開発が待たれている。

書籍の近刊情報、重版情報等が電子化されて取次会社をキーステーションとして配信されるような環境が整えば、既刊の在庫情報などと合わせて書店のレファレンスサービス機能が一段とアップし、需要の創出にもつながる。さらに情報インフラの整備が進めば、インターネットによる読者への出版情報サービスという分野にも拡大していく可能性も高い。その際、真の読者サービスという観点から考えると、自社の出版情報を電子化しがたい状況にある非常に多くの零細出版社が、いかにして業界インフラに参画できるのかという点が重要なポイントになる。現在の電子技術レベルからすれば、たとえばコンピュータを装備していない出版社であっても、例えば一定のフォーマットによるFAX通信を利用して情報の電子化は可能はずである。より多くの出版情報を集積することが、すなわち読者に対するレファレンス機能を高めることにつながるのである。

(6) 流通倉庫における在庫管理の電子化が調達のスピードアップとサービス向上を達成

取次会社が既刊書籍の物流の効率を高め、書店・読者へのサービスを向上させることができるのは、在庫管理の整備から始まる。流通倉庫の在庫品に対する書店注文の迅速処理、流通倉庫非在庫品の出版社在庫確認と調達という業務は、それぞれの倉庫の在庫管理が電子情報化され、メインの流通倉庫、各取次会社の支店倉庫、書店の端末、出版社のコンピュータなどが、ネットワークされていることにより達成されてくる。書籍等の商品が在庫され、書店からの注文に応じられる取次会社の管理倉庫は、メインとなる流通倉庫のほか、全国の支店などにもあり、約一〇〇カ所以上となっている。ところが、それぞれの倉庫に在庫されている商品がコンピュータによって管理され、在庫量の変動が常に正確な状態で補足されているという倉庫はほんの数カ所にしかすぎない。したがって、ほとんどの現場ではその商品を必要とした時点で担当者が自らの目で在庫を確認し、必要量をピックアップするという状態が依然として続いている。

すべての倉庫の在庫がコンピュータで管理されるとい

う環境になると、書店は最も近い倉庫にアクセスして入手することができるし、そこに在庫の無い場合にはセクター倉庫の在庫をチェックし、在庫があればそこから入手することができ、また無ければ出版社在庫を確認して、最終的に入手が可能か不可能かをさらに確認して、書店または読者に知らせることができる。こうしたサービスの向上は、在庫管理がコンピュータによって完璧に運用されて実現できることである。

(7) 出版社は店頭の販売情報を得て決断する

出版社は新刊書籍を不安と期待のうちに発刊する。取次会社を経由して書店に配本された新刊書籍は、店頭での売行が好調であったり、客の注文が多ければ、たくさん追加注文として出版社に届く。この反対の場合は悲惨な状態となり、出版社は一喜一憂する。こうした追加注文が出版社手持在庫でまかない切れなくなると、重版が検討されたりする。こうした発売後の売上動向は、従来売上スリップの翌日回収という手間ヒマと費用のかかる方法で把握されてきたが、情報化に伴い素早い対応の可能性も見えはじめてきた。店頭売上情報、いわゆる

POSデータが電子化されて取次会社・出版社に届けられるようになると、従来とは比べものにならないくらいスピードで注文品の出荷や重版決定が実現できる。これらもすべて情報ネットワークの整備が条件となってくる。こうしたことは品切期間の短縮につながり、読者の読みたい本を早く供給するという意味でサービス向上となる。

(8) 少量出版、少数書店陳列の書籍こそインフラ整備が求められる

専門書は読者層が限定されているということもあって、どの書店でも売れるとは限らない。単価は高いが店頭での回転率は必ずしも高くないため、一般の書店で多く並べることが効率的とは言えない。それだけに、店頭で陳列されていない専門書についての情報と注文品のリードタイムの短縮は、一般の書籍と比べて一層必要である。

専門書を一定量以上並べている書店は全国で三〇〇、五〇〇店と言われている。このような書店でも読者の多様なニーズに十分に応えた品ぞろえをすることはむしろ

しい。このような状態を解決する一つの手段として、書店店頭での書誌検索の仕組みの整備が完成すれば、専門書を求める読者は幅広い情報の中から自分の求める本を探すことができる。データベースが整備され在庫情報も得られれば、仮に店頭で「モノ」が無くても、読者はその本の入手の可否について判断ができ、しかも注文すれば、一定期間で確実に入手することができる。そうすると、店頭で陳列してある場合に近い効果を発揮することができ、少量出版の専門書こそインフラ整備が求められると言える。

2. インフラ整備の現況

読者・書店・取次会社・出版社を結ぶネットワークに不可欠な要素も次第に整備されつつある。以下にこれらの状況について整理しておきたい。

(9) コード体系の充実

商品コード——書籍

書籍の商品コードは周知のとおりISBNコードで体

系づけられている。当初、この商品コードの付番に反発する出版社等も多く、普及・徹底の苦労は並大抵ではなかった。幸い情熱的に努力を続けた業界諸先輩の努力により、現在ようやく新刊書籍の九八パーセントにISBNコードが付され、ほぼ万全の状況と言えるまでになった。今まさに業界がコードを有効に活用する段階にきている。

また、物流や売上データの把握に威力を発揮するバーコードの表示率も文庫の新刊では一〇〇パーセント、書籍の新刊でも五〇パーセントという状況、また大量の新刊は雑誌コードで出荷され、追加注文等は、圧倒的にISBNコードで処理される雑誌扱いコミックスも、ISBNコードとバーコードの付番が次第に徹底してきた。こうした環境の進展から極めて近い将来、書籍型物流はISBNに準拠した書籍型バーコードの体系で一〇〇パーセント処理できるようになると予想される。

商品コード——雑誌・ムック

月刊誌・週刊誌等の雑誌は基本的にはリピート発注がなされないという売切型の販売体制であるためあまりメーカーコードを必要としない。また、表4の広告ス

ペースに与える影響を少なくしたいなどの理由からケタ数の少ない雑誌コードが付番されてきたという経緯がある。もちろん、専門誌等発売後しばらく経過したのちにバックナンバーの注文が入るものがあるが全体の業量の中では極めて小さく、個別の対応でも何とか処理することも可能である。

ところが、いわゆるムックはその内容によって様々であり、ほとんど雑誌と同じく売切型で済ませるものから、書籍と同じく繰り返し繰り返し、追加注文が出され、しかも販売期間も長期にわたるというもので、実に幅広く、雑誌コードのみでは対処しきれないものが多く、課題となっている。コード体系の見直しが急がれるのはこの分野である。

出版社コード・取次会社コード

ISBNコードの体系の中にあるメーカーコードは管理システムが完備していて、そのデータサービス・システムも完成している。業界内における取次会社コードも社数もさほど多くなく、障害となる点は見当たらない。

書店コード

書店コードに関しては、それぞれの取次会社が自社の

	N ₁	N ₂	N ₃	N ₄	N ₅	N ₆	N ₇
出版社	0	0	取引コード				C/D
販売会社	1	販売会社コード				店所コード	C/D
書店	2	府県JISコード		連番			C/D

取引書店に独自のコードを付番して使用している。したがって書店宛の品物を出版社から取次会社に納入する場合、経由する取次会社の使用する書店コードを付記するという形式をとる。書店コードの業界一元化についてはいろいろと論議されているが、これはそもそも書店コードのみにとどまらず、出版社、取次会社までを一括してE D I のための取引先コードとして体系化し、管理されるべきであるとも言える。素案として下記のような提案もなされている。

*書店コードは日書連加盟・非加盟に関わらず、都道府県別ラ
ンダム番号とする。府県コードは、J I S コードを用い、一
府県で九九九軒を超す府県のコードは四八以降を一〇複数与
える。

*この共通コードはあくまで、統一情報ネットワーク上での話
であり、取次会社は従来の書店コードとこの共通書店コード
との対照テーブルをコンピュータ上に待ち、情報通信にどち
らか適宜使い分けてもよい。

*将来の課題としてはN₁の三以降に図書館などをコード化して
もよい。

松平直壽「コードが変える出版流通」より

(10) 書籍マスター・ファイルと各種データベースの現 状

情報流通のキーとなる書籍マスター・ファイルはこれ
までいくつもの曲折を経て主に取次会社の努力によって
作られてきた、という特異な歴史を持つ。その制作プロ
セスは取次会社の仕入窓口、出版社から見本として提
出されたものをデータをデータ入力することによって作られ
積み重ねられ、それを使用目的にあわせて加工し、各種

データベース化している。

このため、各マークは内容を微妙に異にしつつ各取次会社自前のものとして使われている。それではどれほどのデータが収録されるのであろうか。

トーハンマーク

約一二〇万点

日販マーク

約一一〇万点

大阪屋マーク

約八八万点（図書館・神田地

区の取次店が利用）

栗田マーク

約七五万点

太洋社マーク

トーハンマークを使用

中央社マーク

約六七万点

ところが、このデータベースは刊行された書籍がすべて入力されるわけではなく、しかもその書籍が流通しない状況となった段階（絶版など）でそうした表現を加えたり、また定価改定が行われたり等の変化がきちんと加えられたりといった、いわゆるメンテナンスがなされていないため、実際の書籍流通の実情とは著しい食い違いを生じている面もある。その典型的な例としてはコードでアクセスしてもヒットしない事態や、シリーズものの一部欠落等がある。上記のように多数のデータの中で稼

働点数は四〇万〜五〇万点と推測されているが、ある大手取次会社の流通センターにおいて一回でもそのコンピュータによって処理されたことのある銘柄を抽出してみると、月ごとの平均稼働点数が約二〇万点、流通現場でデータベースにヒットしない書籍が毎月四〇点余に達するという報告がある。そのほか、コードが不備のため修正を余儀なくされたり、追加したりする書籍が毎月数百点あると言われている。

また、先に述べた各マークの微妙な違いというのは、作家やタイトルの読みなど各社の入力の違いによって同一書籍であるにもかかわらず、違うものとして存在するという例や、同一ナンバーで異なったバージョンが登録されている例すらある。これらはいずれもマスターファイルの作成が発行当事者ではなく、しかも複数の第三者が現品の奥付から入力されてきたということに起因しているとも言える。今後、こうした作業の省力化とマークの統一化を図るためにも、データ入力の一元化、正確化、そして稼働・非稼働の表示（在庫ステータスの付加）などによって一層使いやすくしていく、ということも検討しなければならない。そのためには、出版社が

一冊の本を生み出すに当たって負わなければならない当然の義務として「データの提供」がある。このことを業界として早急に制度化すべきである。

(11) 出版社のコンピュータ整備状況

データが少し古くなりはじめてはいるが一九九二年に日本書籍出版協会が行ったアンケートによると、加盟四九二社のうち回答のあった三〇〇社の中で、在庫管理がコンピュータで行われている出版社は二七三社であった。

書協非加盟を含め出版社総数は約六、〇〇〇社とされているが出版業界の特性とも言える少人数、小規模の出版社が圧倒的に多く、在庫管理の一〇〇パーセントのコンピュータ化は現在のところ絶望的とも言える。しかしながら、最近では自社で在庫を管理するのではなく、営業倉庫に管理を委託する社も増えてきたり、また出版界のすべての書籍を預かって、注文出庫に応じようとする超大型の総合在庫センター案も検討されるなど、実現の道は残されている。

(12) 取次会社コンピュータ整備状況

前にも述べたとおり、業務の処理にコンピュータを導入している比率の高いのは取次会社である。主要取次会社においてはあらゆる分野でコンピュータの機能を取り入れられて業務が進められている。ただし、いわゆる『神田村』と言われている、東京・神田地区にある古くからの個性的ではあるが小規模の取次店では、一部コンピュータが導入されているが、依然として人手による仕分、発送、請求などの業務が中心となっている。とはいえ、出版業界の中での圧倒的業量はコンピュータで処理されていると言える。

(13) 書店SA化の現状

進みつつある出版業界のインフラの中で最も読者に近く、また流通改善に威力を発揮するものは、書店のSA化（ストア・オートメーション）であろう。書店がSA化されることによって得られるメリットは、①在庫の有無の確認による商品調達の可能性の把握（読者の信頼回復）、②受発注のスピード化、③スリッパの仕分け等によ

するぼう大な人的労力の節約（スリップレス化）、④適正仕入による経営健全化などと非常に大きい。

全国の書店のSA化は現在以下のような状況にある。

（一九九五年七月末現在）

・ディスプレイを持ち在庫情報等を確認できる情報末端機

二、二六〇台

・POSレジ

二、六八〇台

・ハンディターミナル等の発注・返品データ等の送信機七、

四一〇台

現状では、ISBNコード、雑誌コード、バーコード等商品コードの付番が徹底されてきているところから、自店の売上実績を把握する有力機器として各取次会社ともPOSレジの普及に力を注いでおり、近年急速に増加している。今後はさらにその傾向は顕著になるものと言えよう。

(14) 取次会社と書店のネットワーク

前項で述べた書店のSAシステムは、それぞれ取引している取次会社のホストコンピュータと結ばれてネットワークを形成している。したがって、今後構築される業

界統一VANはこれらのネットワークと出版社を結び情報流通をスムーズにするという役割を担うことになる。ただし、ここで問題になるのは書籍マスター・ファイルがそれぞれ取次会社の所有物であることだ。安価で完成度の高いファイルが書店にサービスされるようにならなければ、POSの発達や多店による共同仕入の展開に問題が残る。そのためには、先に述べたように出版社の責任において書籍マスター・ファイルが制作され、それを業界が共有できるようにすべきである。

(15) 図書館の検索機能

図書館の蔵書検索にコンピュータが導入されてきているが、この機能に出版物のデータベースと出版社在庫情報等が十分に提供できるようになると、読者へのサービスは一層向上するし、需要の創出にも役割を果たすことになる。今後、期待されるチャンネルである。

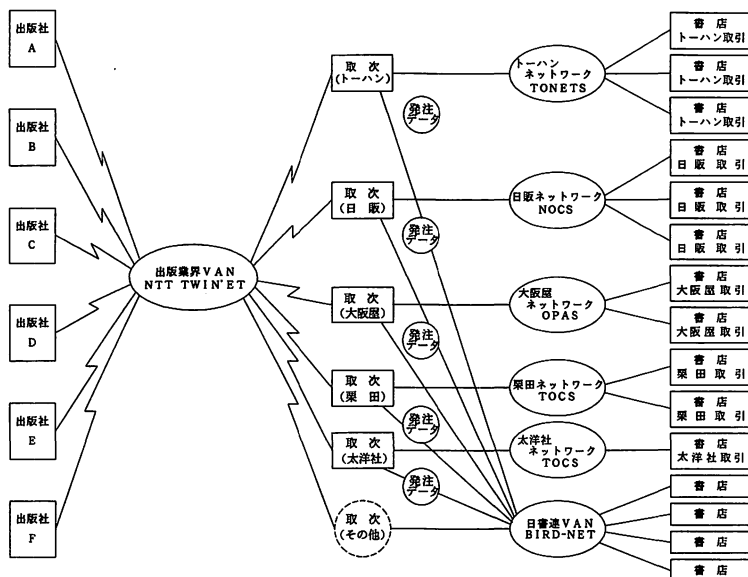
3. 出版業界統一VANの構築

以上述べてきたように、インフラ整備の必要性とVA

N構築の要因となる各部門の現状を踏まえ、業界統一VANに向けての整備をどのように進めるか、を述べることにしたい。一九九〇年秋、出版業界内の有志によって出版社・取次会社間の情報交換をオンライン化するという研究会がスタートし、討議が進むにつれて出版VANを構築しようという運動となっていった。この運動は出版界の特殊な環境（例えば、極めて多数の出版社、多品種少量の出版物、商品の非代替性など）の中での読者への出版情報の提供、サービス向上などの要求を解決できる手段として多くの賛同を得られたが、一方ではまた、未知なるものへの無理解などを解決するために時間をかけて研究する必要もあることから、業界の公式団体として書協（出版社側）、取協（取次会社側）の各委員によって普及促進、啓蒙、そして研究が続けられてきた。検討の緒に就いて以来すでに四年半の時間を要したが、現在のネットワークは図のように構成されている。

このネットワーク構成図は、先に述べた有志による研究団体「出版VAN連絡会（一九九三年九月解散）」によって構築されたものであるが、現在は（株）日本出版取次協会と（株）日本書籍出版協会という二団体からそれぞれ委

出版業界オンラインネットワーク接続図



員を送り「取協・書協VAN推進会議」を構成し、話し合いの中で以下の作業が進められてきている。また、毎月のように接続を開始する出版社が次第に増えつつあるという状況になっている。

・参加出版社の書籍データ・ベースのクリーニング作業

四一社

・在庫情報の提供

四一社

・新刊情報の提供

二三社

・定価改訂情報の提供

二三社

・書籍受発注業務

二三社

・雑誌返品データの送信

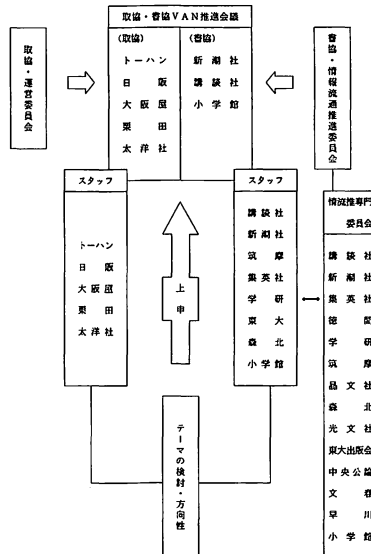
一社

これらの作業を進めるにあたっては、データ・フォーマットの標準化などが不可欠であり、その話し合いは以下のような構図で進められている。

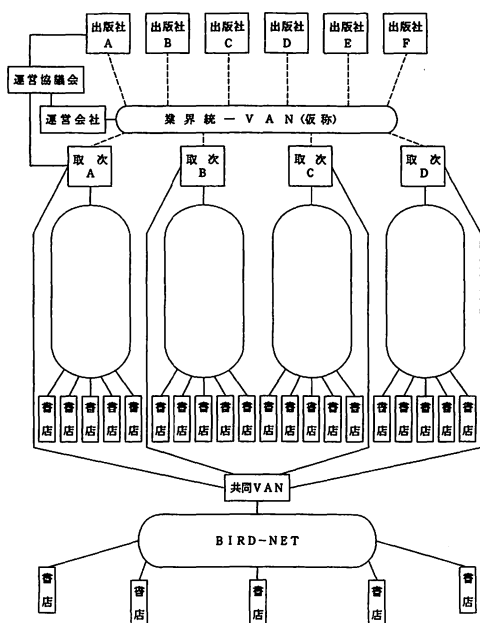
この図のスタッフ会議を中心に検討が進められた結果、「業界オンライン標準データ・フォーマット集第一版」が一九九五年二月に作られた。

また、この「取協・書協VAN推進会議」において長い間かけて討議された結果、一九九六年四月発足を目標としてVAN会社を設立するための「出版業界VAN会

業界統一VAN構築のための話し合い図



社設立準備協議会」を設けることも提案され、鋭意討議も重ねられているという状況となってきた。



この『設立準備協議会』が今後一年をかけて討議していくことになると思うが、その概念図は現在のネットワーク図に運営協議会や運営会社などの具体的な推進団体を加えた形で、次のような形を整えるものと予想される。

また、この協議会では、具体的なスタートに向けて次のようなことが話合われ、決められていくことになる。

- ・運営協議会の構成と運営規約
- ・運営会社の構成―VANの検討・選定
- ・業界統一VAN利用規則―料金体系等含む
- ・業界内の普及・促進方法

こうした動きは今まで長い間抱え続けてきた問題を解決していくために、業界内の各者（社）が各々の利害得失のみにとらわれるのではなく、お互いを理解しあった上で合理的に作り上げていくとする動きの緒についたところであり、この運動を決して無に帰することなく、粘り強くさらに時間をかけつつ、しっかりと組み上げていくことが最も望まれるところであろう。

4. 出版業界統一 VBN 設立に向けての環境整備状況

コード体系	書籍 ・ I S B Nコード 普及率 98パーセント ・バーコード - 文庫新刊 100パーセント - 書籍新刊 40パーセント - コミックス 50パーセント 雑誌 ・雑誌コード ・Tコード ・バーコード 100パーセント 出版社コード・取次コード・書店コード	I S B Nコードの 100パーセント実施を目指す。 バーコードの 100パーセント実施を目指す。 雑誌扱いになっているコミックスのコード体系の一元化を目指す。 ムックのコード体系の見直しが必要。 書店コードの未整備を是正する。																					
データ・ベース	データ・ベースの構築は取次 データ蓄積量 <table> <tr> <td>トーハン</td> <td>マーク</td> <td>120万件</td> </tr> <tr> <td>日 販</td> <td>マーク</td> <td>110万件</td> </tr> <tr> <td>大 阪 屋</td> <td>マーク</td> <td>88万件</td> </tr> <tr> <td>栗 田</td> <td>マーク</td> <td>75万件</td> </tr> <tr> <td>太 洋 社</td> <td>マーク</td> <td>トーハン マークを利用</td> </tr> <tr> <td>中 央 社</td> <td>マーク</td> <td>67万件</td> </tr> <tr> <td>日 書 連</td> <td>マーク</td> <td>92万件</td> </tr> </table>	トーハン	マーク	120万件	日 販	マーク	110万件	大 阪 屋	マーク	88万件	栗 田	マーク	75万件	太 洋 社	マーク	トーハン マークを利用	中 央 社	マーク	67万件	日 書 連	マーク	92万件	データ・ベース構築の一元化により、統一性と省力化を図ることが望ましい。
トーハン	マーク	120万件																					
日 販	マーク	110万件																					
大 阪 屋	マーク	88万件																					
栗 田	マーク	75万件																					
太 洋 社	マーク	トーハン マークを利用																					
中 央 社	マーク	67万件																					
日 書 連	マーク	92万件																					
コンピュータ整備状況	書協調査による出版社の整備状況（'92年5月実施） 対象 492社 回答 300社 コンピュータ使用社 273社 取次会社 大手取次会社の業務処理はコンピュータ化が終わっている。 中小取次店の中で未整備の社が多い。	共同倉庫利用による電子情報化率のアップを図る。 情報送信サービス化の共同利用を図る。																					
書店SA化状況	・ディスプレイを持ち在庫情報等を確認できる情報端末機 2,260 台 ・POSレジ 2,680 台 ・ハンディターミナル等の発注・返品データ等の送信機 7,410 台	検索機能を備えた機器の充実が必要。 POSレジの普及は加速度的に進む。																					

物流改善のポイント

雑 誌	コミックスおよびムック
専門誌および少部数発行のための情報および発注の合理化。	書籍に対する読者ニーズと共通する面が多い。
適正仕入への努力。 POSデータ、返品データ、季節変動指数等を総合的に取り入れた定期改正システムの構築。	適正需要の把握。 新刊（雑誌扱い）と追加仕入（書籍扱い）のデータ統一を図る。
単店別単品別の実績の把握は完璧。 返品情報の電子化 現地処理も考慮した業務の省力化と即時入力。 新刊輸送 出版社・取次会社間の物流システムの合理化による全国発売日の格差の改善。	新刊は雑誌ルートでの配本、補充注文等追加供給は書籍ルートでの送品。 ムックの追加注文分の実績加算が不可能。
発行部数の適量化 書店の売上情報の分析をスピード化し、発行部数の適正値をいち早く判断する。	ムックの単店実績の把握。
部数の定期改正の充実。 新刊発送、返品処理業務の省力化、スピード化。 専門誌、少部数誌の注文の簡素化と迅速化。	

5. 出版物の情報流通と

	書 籍 ・ 新 刊	書 籍 ・ 既 刊
読 者	刊行情報入手機会の充実を図りたい。 刊行情報と現品入手機会の差が著しい。 読書意欲に適合する供給体制の充実。	必要とする書籍の入手可・不可情報。 注文品の入門所要時間の短縮を切望。
書 店	自店必要数に対する仕入能力の欠如。 自店必要数仕入権の遮断。 自店入荷数の事前情報入手が不十分。 追加入手希望に対する充足度が低い。 売行情報の有効活用。	店頭在庫・取次在庫・出版社在庫の確認により、読者へのサービス向上を目指す。 読者へのレファレンスサービスの向上。 客注品受注に対する“逃げの姿勢”の是正。
取 次	単店別販売能力の把握と適正配本の仕組が不十分。 刊行前の市場調査能力の欠如と仕入能力の欠如	メイン流通倉庫・支店など地方倉庫の在庫情報の電子化。 書店からの受注品の短時間出荷の強化。
出 版 社	初版部数決定のマーケティング能力。 店頭売行情報の入手と第二次、第三次供給体制づくり。 市場在庫把握の欠如。	データ・ベースのクリーニングと在庫情報の電子化。 在庫情報の提供と電子受発注体制づくり。 短時間出庫体制づくり。
改 善 の ポ イ ン ト	より適正にできる新刊配本のしくみ。 過不足分の調整機能。 店頭売行情報の早期把握・提供の体制づくりと重版までの時間短縮。	在庫管理の電子化。 在庫情報の検索機能強化。 電子受発注体制の確立と送り時間短縮の実現。 客注品に対するサービス向上。

人文会会員名簿

(〒111 台東区蔵前 2-5-3 筑摩書房内)

1995. 12. 現在

	社 名	担当者	〒	所 在 地	電 話	FAX
	青 木 書 店	古川 清	101	千代田区神田神保町 1-60	3219-2341	3219-2585
	大 月 書 店	原田 敦雄	113	文京区本郷 2-11-9	3813-4651	3813-4656
	御茶の水書房	平石 修	113	文京区本郷 5-30-20	5684-0751	5684-0753
幹 事	紀伊國屋書店	尼子 英二	156	世田谷区桜丘 5-38-1	3439-0128	3439-3955
	勁 草 書 房	氏家 富男	112	文京区後楽 2-23-15	3814-6861	3814-6854
幹 事	社会思想社	清水 博	113	文京区本郷 3-25-13		
				中銀本郷 3 丁目ビル	3813-8105	3813-9061
	春 秋 社	鈴木龍太郎	101	千代田区外神田 2-18-6	3255-9611	3253-1384
	晶 文 社	島田 孝久	101	千代田区外神田 2-1-12	3255-4501	3255-4506
幹 事	誠 信 書 房	濱地 正憲	112	文京区大塚 3-20-6	3946-5666	3945-8880
	創 元 社	重光 義彦	162	新宿区山吹町 334-11	3269-1051	3269-1092
	草 思 社	浴野 英生	150	渋谷区神宮前 4-26-26	3470-6565	3470-2640
代表幹事	筑 摩 書 房	菊池 明郎	111	台東区蔵前 2-5-3	5687-2680	5687-2685
	東京大学出版会	吉田 信夫	113	文京区本郷 7-3-1		
				東京大学構内	3811-8814	3812-6958
幹 事	日 本 評 論 社	後藤 光行	170	豊島区南大塚 3-12-4	3987-8621	3987-8590
幹 事	福 村 出 版	土屋知可夫	112	文京区小石川 1-3-17	3813-3981	3818-2786
	平 凡 社	丸山 正美	152	目黒区碑文谷 5-16-19	5721-1234	5721-1239
	法政大学出版局	市川 昭夫	162	新宿区市谷田町 2-14-1	5228-6271	5228-6010
	み す ず 書 房	福田 晴行	113	文京区本郷 5-32-21	3814-0131	3818-6435
	ミネルヴァ書房	杉田 啓三	607	京都市山科区日ノ岡堤谷町 1		
				(075) 581-5191 (075) 581-0589		
			162	新宿区市ヶ谷山伏町 5	3267-3849	3235-9539
	未 來 社	吉田 哲夫	112	文京区小石川 3-7-2	3814-5521	3814-8600
幹 事	雄 山 閣 出 版	武 一雄	102	千代田区富士見 2-6-9	3262-3231	3262-6938
	有 斐 閣	田村 謙二	101	千代田区神田神保町 2-17	3265-6811	3262-8035
	吉 川 弘 文 館	阿部 昇	113	文京区本郷 4-1-7	3813-9151	3812-3544

販売企画委員会 ◎清水 ○吉田 (信) 古川 氏家 福田 杉田

調査・研修委員会 ◎濱地 ○平石 原田 浴野 市川

図書館委員会 ◎尼子 ○島田 田村 阿部

弘報委員会 ◎土屋 ○鈴木 重光 丸山 吉田 (哲)

監修 梅棹忠夫 編集 松原正毅 代巻十 NIRA
 (総合研究開発機構)

世界民族問題事典

ボスニア、イスラーム復興運動、在日朝鮮人、先住民、外国人労働者
 —日々報道される紛争の背後で何が問われているのか。歴史的背景から
 解明し、水面下につごめく民族間関係も世界全域にわたってマッピング。
 ◆総項目数 9000 収録数 6500 / 原稿数 7000 以上 総発行部数 13500 部

民族問題を根源から理解し、21世紀を展望する世界初の事典!!
 ●定価23,000円(税込)

東京都目黒区碑文谷5-16-18
 〒152 ☎03-5721-1234
 渋谷 ☎0180-0-28838

平凡社

日本評論社

キューアンドキュー 林 茂夫 著

Q&Qの時代を生きる

平和・非核への新たな挑戦

これまでの発想では現代を読み解けない。
 市民・自治体が自分の問題として果敢に挑
 戦することで平和・非核への道が拓かれる。
 四六判/2060円

ファミリーカウンセラーのノートから

結婚と家族に ついての101章

新田 慶 著

揺れ動く現代の家族、とくに結婚と離婚を
 めぐるさまざまな葛藤の姿。だれもが直面
 する101の悩みをこころ細かに処方する。
 四六判/1545円

東京都豊島区南大塚3-12-4 ☎03-3987-8621

法政大学出版局
 (表示価格は税込)

- ・ **手紙の時代**
 高橋安光 啓蒙期フランスを中心に、手紙に
 隠されたドラマを読みとる秀抜な人間観察の
 書。現代人における〈手紙のすすめ〉。3090円
- ・ **地獄の歴史**
 ターナー 時空を超えて滔々と流れる冥界の
 地下水脈を辿り、地獄に反映された現実世界
 ・時代精神を検証する。野崎嘉信訳/4429円
- ・ **昔話と伝説**
 リューティ 精緻をきわめたテキスト分析に
 より、物語文学の二つの基本形式の本質と相
 互作用を解明。高木昌史・万里子訳/3708円
- ・ **古代ローマの恋愛詩**
 ヴェーヌ 西洋における詩の歴史的特徴を視
 野に入れ、恋愛詩の世界を読み解きつつ、そ
 の位置を定義しなおす。鎌田博夫訳/3914円

162 東京都新宿区市谷田町2 ☎03-5228-6271

〈好評手話入門〉

〈待望の刊行〉

子どもは心理学者

●心の理論の発達心理学
 ベネット編 二宮克美・子安増生・渡辺弥生・首藤敏元訳
 今、アメリカで注目の「心の理論」を中心に、多様な領
 域から子どもの心の発達を捉えた、最新の認知発達研究
 の集大成。
 A5判/定価四二〇〇円

手話入門ストーリー
ひとさし指のマジック
 サイン加藤・穂高由佳著 こくふつうの女子高生、
 穂高由佳の綴る、笑いと涙の手話の入門ストーリー。
 あなたもフアンタスティックな手話の世界へかけ
 てみませんか。
 四六判/定価一五〇〇円

東京・文京 小石川1-3
福村出版 電話 (03) 3813-3981
 定価は税込

みすず書房

《創業50周年》

ブラジルへの郷愁

レヴィ・ストロース 随筆行での写真一八〇点と序文と語り。「悲しき熱帯」の分身。川田順造訳 八七五円

フランス革命事典

I・II

フュレ／オズーフ 民主主義の源を扶る独自の事典
河野阪上・富永監訳 I 一九五七〇円 II 一六四八〇円

若きパルク／魅惑

ヴァレリー／中井久夫訳 二〇世紀詩の金字塔をなす画期的な訳業。研究の到達点をも示す決定版。九九九円

東京・文京・本郷3-17-15 ☎03-3814-0131

螺旋と蒼穹

壇谷雄高著

野間宏や井上光晴らへの哀悼から社会主義体制の崩壊にいたる現代史の展開まで、さらにはポオやモーツァルトまで自在に論じた53篇の最新評論集。四六判・二五〇頁 ●2575円

虹と睡蓮

壇谷雄高著

好評
3刷

NHKテレビで「死霊」の世界を語り健在を告知した著者が遠く去った亡友らを哀惜をこめて追悼。「死霊」最終章への予告ともなる最新評論集。四六判・二六〇頁 ●2575円

東京都文京区小石川3-7-2
電話(03)3814-5521 〒112 未来社

ミネルヴァ書房

西欧中世史 全三巻

〔下〕 〔中〕 〔上〕

継承と創造

三五〇〇円

佐藤彰一／早川良弥編著 諸民族の社会と文化の融合により成立した中世世界を最新の研究成果より考究。

成長と飽和

三五〇〇円

江川温／服部良久編著 十一〜十三世紀、順調な経済成長に支えられた中世における最盛期を描く。

危機と再編

三五〇〇円

朝治啓三／江川温／服部良久編著 広範な危機的現象をへて、新たな秩序が形成される中世後期を考察。

〒607 京都市山科区日ノ岡堤谷町1番地
TEL 075-581-0296 振替 01020-0-8076

地獄と極楽 〇だれが作ったか

菊村紀彦著

●1998円

アジアの靈魂観

諏訪春雄・川村湊編

●2266円

韓国の民話

任東權著／熊谷治訳

●1998円

ロマン海と山の裸女 〇山姥物語

笹間良彦著

●1998円

雄山閣

千代田区富士見2／振替00130-5-1685

日本社会
その腰脈その解明
R. スミス／村上、草津訳 社会人類
学の視点から近・現代日本社会の精
神基盤を問い直す。 定価2200円

富国・有徳論
清貧の思想では日本はだめになる。
物の豊かさとは心の豊かさは両立する。
阪神大震災に学ぶ、明日の日本のた
めの大胆な青写真。 定価2200円

川勝平太

紀伊國屋書店
出版部：東京都世田谷区桜丘5-38-1
☎ 03 (3439) 0128 (営業) 表示価格は税込み

有斐閣 (有斐閣選書) 東京・神田・神保町2/Tel. 03-3265-6811

経済人類学を学ぶ 定価 一六四八円
栗本慎一郎編著 経済人類学の基礎とその可能性を示す。

社会史への途 竹岡敏温・川北 稔編 (有斐閣選書) 定価 二六二〇円
社会史の形成と主な領域を解説。社会史研究の魅力が伝わる。

死を学ぶ 最期の日々を輝いて 定価 一八五四円
柏木哲夫著 ホスピスの現場から人間らしい死を考える。

エンパワーメントの女性学 定価 一八五四円
村松安子・村松泰子編 (有斐閣選書)

勁草書房 * 定価は税込

日沖宗弘 著 ———— 2266円 予310

今ブームのねこ本、最新刊!!

**ねこを写せば
心が映る**

<ノラねこ写真集+
エッセイの超決定版>

5万部突破「プロ並みに撮る写真
術」シリーズの著者が撮る渾身
のフォト・エッセイ。愛情とユー
モアたっぷりの感動ノラねこ物語。
ココロによく効く本です。

〒112 東京都文京区後楽2-23-15
☎ 03-3814-6861 / (機) 00150-2-175253

◎ 広い読者に役立つ初めての「一巻本選集」

グラム・シリダー 菊判 六〇〇頁 七九三円
フオガチ編／東京グラム研究会訳
第一部は一九二六年から逮捕された二三年までの論稿、第二部は
獄中ノート(一九一三年)の重要な論稿で構成されている。

◎ タチャー・シフトとの文通と親交を初めて還元
アンティゴネと囚われ人 菊判 シュフット 五三五六円
アルド・ナトリ／上杉聡彦訳
アンティゴネに寓せられたタチャー・ナガが十年余の間、いかにグラ
ムシの精神的、物質的支柱であったかを往復書簡より分析。

◎ 理論と実践の関係を実践へ知への問題として解説
実践へ知へー情報する社会のゆくえー AS判 三〇〇頁 予価三八〇〇円
ラジチル／石塚省 監訳
実践的知識へ翻訳できる学問的知識はどのような条件で生み出さ
れるか、社会科学の知識とその実践的帰結への社会学的分析。

御茶の水書房
東京・文京区本郷5-30-20 ☎ 03-5684-0751

木下是雄集①

物理の樹

洋服は二着交替に着たほうがいたみにくいのか？ 砂は濡れるとなぜ黒くなるのか？ 日常の細部、ナマの現象から平明な言葉で解きあかしてゆく、珠玉の科学エッセイ。 3800円

◆続刊予定

②山・ひと・スキー

登山とスキーをめぐる楽しい思索。

③日本人の言語環境を考える

大胆かつ実地的な日本語論。

晶文社

東京都千代田区外神田2-1-12
電話03(3255)4501

社会思想社

(定価税込)

四人姉妹の——ホリー・J・パークハルター著
カントリリークリスマス
濱端泰子訳 古いクリスマスが甦る▼一六〇〇円
歎異抄入門 親鸞と現代
歎異抄研究会著 共同討議の成果 ▼二〇〇〇円
名医の語る健康法 ▼一八〇〇円
荒井魏編著 最新医学の知恵と病氣予兆チェック
『JFK』悪夢の真実 瀬戸川宗太著
ベトナム戦争とゲネティックのシネマ学 ▼一六〇〇円

東京都文京区本郷3 ☎03-3813-8101

わたしらしさの発見5

アサーティブ・ウーマン

自分も相手も大切に自己表現

●フェルプス・オースティン著

●園田雅代・中釜洋子訳 ◎3090円

日本女性にとって苦手な自己表現を、真に自分を豊かにする方法として行なう秘訣を語る。全米25万人の女性の圧倒的支持を得た話題作。

イメージ自己体験法

心を味わい豊かにするために

●門前 進著

◎1648円

イメージは夢と同様に心的世界について多くを教えてくれる。本書は、心の主体性を回復し、生き方を深めるための方法を易しく解説。

誠信書房

東京都文京区大塚3-20-6
☎03-3946-5666 ▶税込▲

ワイル博士の—— ナチュラル メディスン

増補改訂版

◆アンドルー・ワイル／上野圭一訳

全米ベストセラー

『癒す心、治る力』の実践編！

あなたの健康にいますぐ役立つ自然療法の決定版。食生活、呼吸法、ハーブの使い方等、からだの治癒力を活性化するためのウェルネス・マニュアル。 3200円

▶定価は消費税込み

春秋社

101 東京都千代田区外神田2-18-6
☎3255-9611 振替00180-6-24861